平成 24 年度

在宅医療連携拠点事業

南東北ブロック活動発表会

日時：平成 25 年 1 月 26 日（土）14:00～17:30

会場：鶴岡地区医師会館 講堂（山形県鶴岡市）

主催：南東北ブロック内在宅医療連携拠点事業所

共催：独立行政法人国立長寿医療研究センター

目　　次

次　　第 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

参加者名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

発表資料

① 宮城県仙台市　仙台往診クリニック ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

② 宮城県名取市　医療法人社団　爽秋会 ・・・・・・・・・・・・・・・ 8

③ 宮城県石巻市　石巻市立病院開成仮診療所 ・・・・・・・・・・・・・12

④ 山形県鶴岡市　社団法人鶴岡地区医師会 ・・・・・・・・・・・・・・18

⑤ 福島県東白川郡塙町　JA 福島厚生連 塙厚生病院 ・・・・・・・・・ 24

⑥ 福島県白河市　　しらかわ在宅医療拠点センター ・・・・・・・・・ 27

⑦ 新潟県長岡市　　こぶし訪問看護ステーション ・・・・・・・・・・ 32

⑧ 新潟県魚沼市　　魚沼市立守門診療所 ・・・・・・・・・・・・・・ 38

⑨ 宮城県気仙沼市　本吉病院地域推進室 ・・・・・・・・・・・・・・ 45

Memo

配布資料

在宅医学会リーフレット

他、各種リーフレット関係

次　　第

総合司会：鶴岡地区医師会 在宅医療連携拠点事業室ほたる 室長　中村秀幸

1. 開　　会

2. あいさつ　・・・　国立長寿医療研究センター在宅医療連携部　後藤友子 様

3. 発　　表　　14:10～15:10

① 在宅医療連携拠点事業における当クリニックの取り組み
宮城県仙台市　仙台往診クリニック　社会福祉士　佐々木みずほ

② 在宅医療連携拠点事業活動報告
宮城県名取市　医療法人社団爽秋会　岡部医院 院長　佐藤隆裕

③ 平成24年度　在宅医療連携拠点事業活動報告
宮城県石巻市　石巻市立病院開成仮診療所　看護師　渋谷尚子

④ ほたるの活動報告　～医師会モデル確立を目指して～
山形県鶴岡市　社団法人鶴岡地区医師会　看護師　島貫設子

休　　憩　　15:10～16:20

⑤ 福島県東白川郡における「在宅医療連携の課題」
福島県東白川郡塙町　JA福島厚生連 塙厚生病院　医師　星　竹敏

⑥ NPOが挑む！まちなか連携室
福島県白河市　しらかわ在宅医療拠点センター　医師　穂積彰一

⑦ 当在宅医療連携拠点事業の取り組みについて
新潟県長岡市　こぶし訪問看護ステーション　総合管理者　吉井靖子

⑧ 在宅医療連携拠点事業　魚沼市守門診療所活動報告
新潟県魚沼市　魚沼市立守門診療所　MSW　櫻井淳子

⑨ 気仙沼市立本吉病院の取りくみ　資料のみ

休　　憩　　16:20～16:30

4. 意見交換、フリーディスカッション　　16:30～17:15
座長：鶴岡地区医師会副会長　土田兼史

5. 協　　議　3/31（日）開催「在宅医学会」での発表について

6. 閉　　会　鶴岡地区医師会 会長　三原一郎

在宅医療連携拠点事業南東北ブロック発表会参加者名簿

日時：平成25年1月26日（土）14:00～

	都道府県	事業所名	氏名	職種・役職等	発表者	懇親会
1	宮城県	仙台往診クリニック	遠藤　美記	保健師		
			佐々木　みずほ	社会福祉士	○	
2		医療法人社団爽秋会	佐藤　隆裕	岡部医院院長	○	○
			渡辺　芳江	岡部医院訪問看護ステーション所長		
3		石巻市立病院開成仮診療所	長　純一	医師		○
			安達　祥子	社会福祉士　看護師		○
			池田　亜衣	社会福祉士		○
			渋谷　尚子	看護師　介護支援専門員	○	○
4		本吉病院	欠席			
5	山形県	社団法人鶴岡地区医師会	中村　秀幸	拠点事業室ほたる室長		○
			三原　一郎	鶴岡地区医師会長		○
			土田　兼史	同副会長		○
			菅原　由紀	同事務局次長		○
			遠藤　貴恵	総務課地域連携係係長		○
			島貫　設子	看護師	○	○
			渡邊　田鶴子	相談員　介護支援専門員		○
			小野寺　亜衣	事務		○
			梅木　美枝	看護師		
6	福島県	JA福島厚生連塙厚生病院	星　竹敏	医師	○	○
			嶋田　富枝	地域医療連携室長		○
7		しらかわ在宅医療拠点センター	穂積　彰一	穂積医院院長	○	○
			降矢　枡美	事務長		○
8	新潟県	こぶし訪問看護ステーション	吉井　靖子	総合管理者	○	
			船越　芳之	MSW		
			坂尾　稿 △	関係業者		
9		魚沼市立守門診療所	佐藤　竜郎	魚沼市健康課新病院対策室室長		○
			櫻井　淳子	守門診療所MSW	○	○
			柏木　涼子	守門診療所		○
		○	上村　伯人	上村医院院長（都道府県リーダー、小千谷魚沼市医師会理事）		
	国立長寿医療研究センター在宅連携医療部		後藤　友子			○

その他

山形県	健康福祉部地域医療対策課	大類　真嗣	主査	
	庄内総合支庁保健福祉環境部保健企画課（庄内保健所）	石名坂　洋行	企画調整主査	
		田澤　縁	健康増進主査	
	鶴岡市健康福祉部長寿介護課	相澤　康夫	課長	
		押井　新一	課長補佐	
		原田　真弓	主幹兼地域包括支援センター所長	
		叶野　真弓	地域包括支援センター主査	
	鶴岡地区歯科医師会	澤田　正佐子	澤田歯科医院　歯科医師	
		柏木　三穂	協立歯科クリニック　歯科医師	
		伊藤　弘恵	いとう歯科医院　歯科医師	
	最上保健所	渡部　順子	企画調整主査	
	一般社団法人山形県薬剤師会	篠田　太朗	在宅医療介護保険委員会委員長	
	天童市東村山郡医師会	三條　篤史	三條外科胃腸科医院副院長	
福島県	県医師会	常盤　峻士	医師	

見学者

岩手県	一関市保健福祉部健康づくり課	鈴木　久仁子	保健師	

参加者数計　44名

懇親会参加　21名

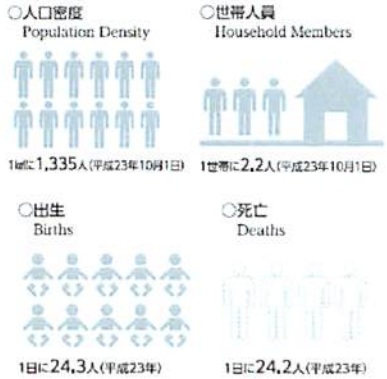
在宅医療連携拠点事業における当クリニックの取り組み

仙台往診クリニック

南東北

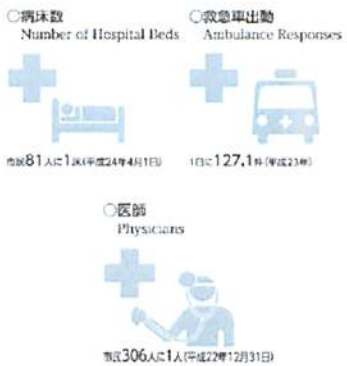
仙台市の概要

- 人口106万人
- 65歳以上人口
  193,263人
- 高齢化率 18.8%
  65歳以上52%
  75歳以上48%
- 在宅死亡率 20.9%
  （宮城県平均17.9%）

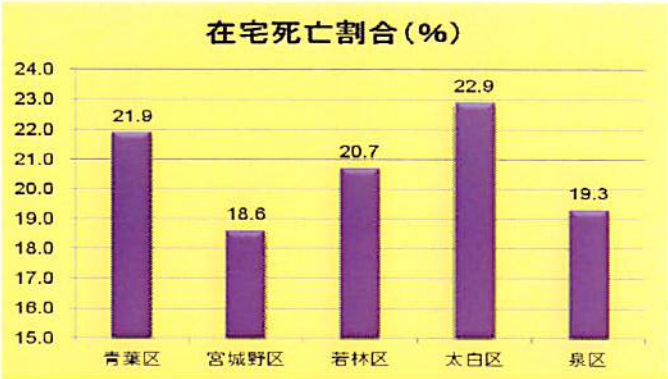


仙台市の医療・介護資源

- 病院 60(精神科含む)
- 一般診療所 880
  うち
  在宅療養支援診療所届出箇所 56
  訪問診療専門で行う診療所 11
- 医師数 3,348人
- 訪問看護事業所 57
  訪問リハビリ 4
  薬局(訪問薬剤管理指導) 245
- 居宅介護支援事業所 245
  施設サービス 70
  居宅サービス(訪問介護、訪問入浴、通所介護) 473

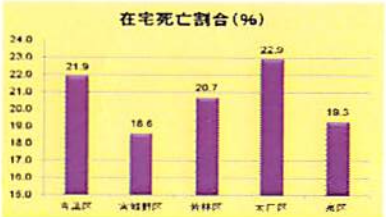


仙台市内 各区の在宅死亡割合

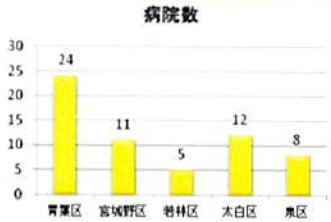


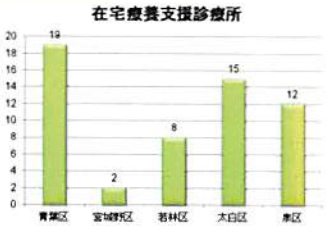
平成22年度 宮城県 衛生統計年報より

仙台市内　各区の病院等の数



平成22年度 宮城県
衛生統計年報より





在宅医療連携拠点事業構想図

9

在宅医療とみんながつながる会

第1回　9月26日
参加者構成：64名
・各団体代表者
・行政
・医療・介護関係者
①国の動向と在宅医療連携拠点事業について情報提供
②テーブルごとに意見交換

第2回　11月28日
参者構成：78名
・各団体代表者　・行政
・医療・介護関係者
①アンケート調査結果及び課題報告
②ワークショップ
多職種連携における情報共有についての検討

アンケート調査

＜目的＞

他施設間・多職種間連携に関する課題の抽出

調査票配布対象

調査票配布対象先　　回収数／配布数

① 病院　36／60ヵ所
（宮城県病院名簿　平成24年4月1日現在より）

② 在宅療養支援診療所　16／55ヵ所
（東北厚生局届出受理医療機関名簿　平成24年8月6日現在より）

③ 在宅療養支援歯科診療所　15／24ヵ所
（独立行政法人福祉医療機構（WAMNET）検索　平成24年9月1日現在より）

④ 訪問看護ステーション　21／54ヵ所
（仙台市介護保険サービス事業者一覧　平成24年9月1日現在より）

⑤ 調剤薬局　101／248ヵ所　※うち在宅訪問実施は39ヵ所
（みやぎ薬局検索「在宅医療」参加とある薬局　平成24年9月1日現在より）

⑥ 居宅介護支援事業所　92／245ヵ所
（仙台市介護保険サービス事業者一覧　平成24年9月1日現在より）

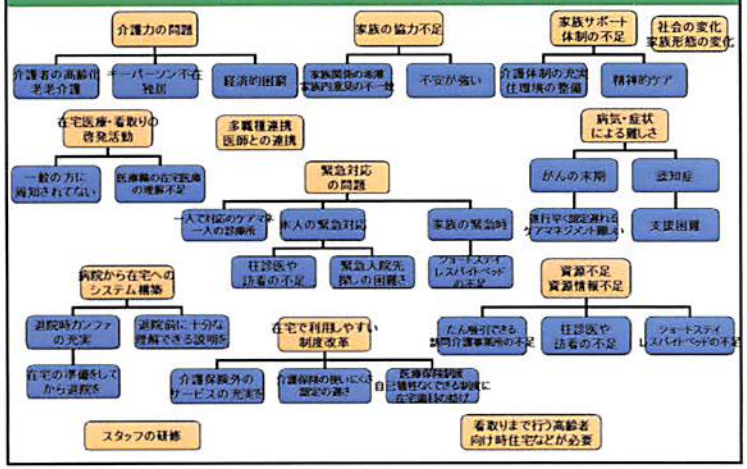
合計 281／686ヵ所　回収率 40.1%

アンケートの主な内容

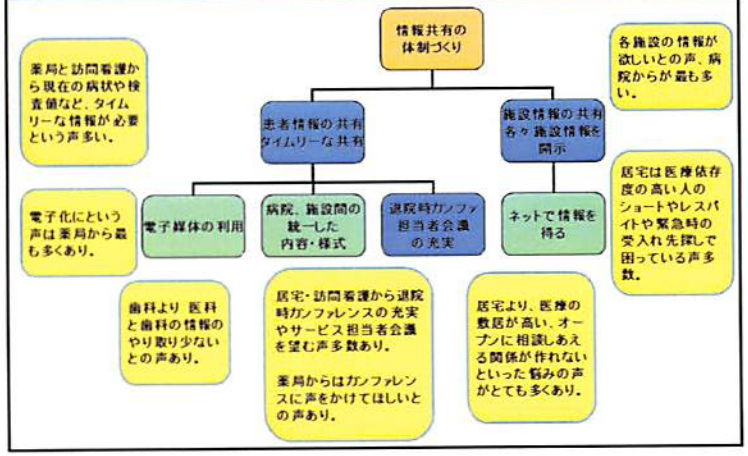
- 在宅で最期まで過ごしたいという方の希望を叶えるための課題（自由記述）
- 多職種連携のための施設情報・患者情報の共有の課題（自由記述）
- 他施設との連携に必要な情報（得たい情報）および自施設情報の開示について（開示できる情報）（選択式）

在宅で最期まで過ごしたいという方の希望を叶えるための課題

在宅で最期まで過ごしたいという方の希望を叶えるための課題



他施設・多職種連携のための 施設情報・患者情報共有の課題



情報共有の課題 自由記述 生の声ご紹介

病院

・医療機関や施設などの空床情報をリアルタイムに共有できるネットワークがあると良い。
・具体的にどのような疾患をみるか、どのような処置に対応可能かなど細かい生きた情報を開示してほしい。
・医療相談員、個人レベルでの施設情報、患者情報のやり取り共有の傾向が強い。病診、病病連携のシステム化構築が今後の課題。

在宅療養支援診療所

・医療者側からケアマネ等とオープンなコミュニケーションをとっていく中で連携を強化していく必要性を感じます。他職種の方々が情報を遠慮なく伝えやすい状態を作っておくことが大切なことのひとつかと思っております。
・ケアマネや事業所と定期的ミーティングで顔が見える関係を作りたいが、時間的、物理的に困難です。

在宅療養支援歯科診療所

・多職種間で共通に利用できるカルテ形式のようなものが、患家、施設等にあると、すべての状態をみんなで把握できるのではと思います。
・積極的というのではなく、ある程度コアメンバーで利用法を決めるチームになっていると、情報共有しやすいような気がします。狭いエリアで協力できる体制が現実的では。
・情報は、自ら求めないと得られない。

調剤薬局

・タイムリーに情報が収集できると、処方の変更なども憶測ではなく、きちんと説明できると思います。
・クラウド化や一元管理について、今後在宅での人数を考えると今から取り組みたい。検査データの確認、腎、肝機能、特に、副作用予防のためにわかると良い。
・密な情報交換をして、患者様・ご家族のケアも含めやっていかないとと思います。定期的ミーティング等は効果的だと思います。

訪問看護ステーション

・病状変化あり主治医へ報告した際、指示や対応、情報等返信ほしい。
・主治医が個人病院だと連絡取りやすいが、大病院だと連携室にファックスを用いて等、タイムリーな連携難しい。
・在宅生活・療養生活を送る人の支援体制について周知されていない。訪問看護を知らない人、施設もあり、課題だと思う。

居宅介護支援事業所

・医療系サービスにはなかなか相談しづらい雰囲気を出されることがある。医療職の方が、介護についての理解を持ってもらえるとよい。
・主治医との連携にとても気を遣う。忙しい中、どこまでの情報を提供したらいいか迷う。
・スムーズな連携により利用者を支える仕組みが必要と思います。そのためにはケアマネ側のレベルアップが不可欠と感じます。

在宅医療

平成24年
12月
3～14日

体験実習参加者募集!

在宅医療を体験してみたいという方のために、「在宅医療体験実習」を予定しております。ご希望の方はふるってお申し込みください。

■日時：平成24年12月3～14日（除く土日）のうちの希望日

つながラインで登録することにより掲載可能な情報

■施設特化機能の有無（各疾患・療法の対応可否）

▽例1：在宅療養支援診療所
（認知症 がん 脳血管疾患後遺症 特定疾患（難病） その他全身性疾患
在宅酸素 点滴 経管栄養 中心静脈栄養 人工呼吸器 など）

▽例2：訪問介護事業所
（介護保険による訪問介護 自立支援法による重度訪問
喀痰吸引 経管栄養 など）

■休日・夜間の体制

■新規在宅療養者の受け入れ態勢・申し込み手順
▽連絡先電話番号・担当者名

▽事前に必要となる情報

■訪問範囲の目安
▽区または住所単位で、対応可能かどうかを図示する

▽1km四方のグリッド単位で、対応可能かどうかを図示する

など、本日配布の"アンケート調査結果"にある全項目

つながラインの一部(イメージ)

今後予定している活動

- 第3回在宅医療とみんながつながる会
- 在宅医療普及啓発パンフレットの配布
- 他

ご静聴ありがとうございました。

平成24年度
在宅医療連携拠点事業
活動報告

医療法人社団　爽秋会　岡部医院

爽秋会（岡部医院）の概要

- スタッフ数（H25年1月現在）
  - 医師 7名（非常勤 2）
  - 看護師 25名
  - ヘルパー 12名（非常勤 3）
  - CM・MSW 6名
  - 作業療法士 5名（非常勤 2）
  - 鍼灸師 1名
  - チャプレン 1名
  - 研究員 1名
  - 配送・運転手 4名
  - 事務（含むIT）17名（非常勤1,派遣1）
- 年間患者紹介数
  - 517名
- 年間看取り数
  - 326名

医療法人社団 爽秋会

爽秋会　訪問看護ステーションサテライト

医療法人社団 爽秋会

訪問エリア

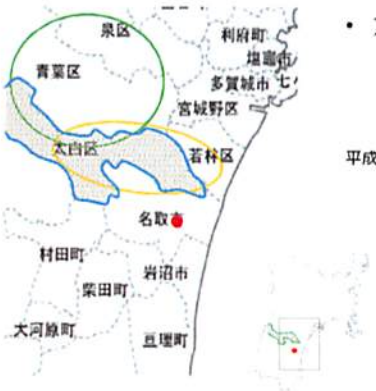
A：亘理、岩沼、名取、太白区

B：若林区、太白区、

C：青葉区、泉区、太白区

E：若林区、宮城野区、泉区、青葉区、利府町多賀城市

仙台市太白区を対象地区に



- 太白区の概要
  - 人口：224,273人
  - 65歳以上：44,268人
  - 高齢化率：19.7%

平成25年1月1日現在（仙台市HPから抜粋）

仙台市太白区の医療介護資源

区分	件数
在宅威支援診療所	14
薬局（在宅患者訪問薬剤管理指導料の届出あり）	54
訪問看護ステーション	14
訪問リハビリステーション	2
ショートステイ（特養）	11
ショートステイ（老健・療養型）	6
訪問介護事業所	54

在宅医療連携拠点事業の５つのタスク

1. 多職種連携の課題に対する解決策の抽出
2. 在宅医療従事者の負担軽減の支援
3. 効率的な医療提供のための多職種連携
4. 在宅医療に関する地域住民への普及啓発
5. 在宅医療に従事する人材育成

1）多職種連携の課題に対する解決策の抽出

- 全ての職種が関わるスピリチュアルケアを中心に、地域のケア従事者と事例を通じた勉強会を実施（医師・看護師・薬剤師・ケアマネジャー・ヘルパー等が参加）

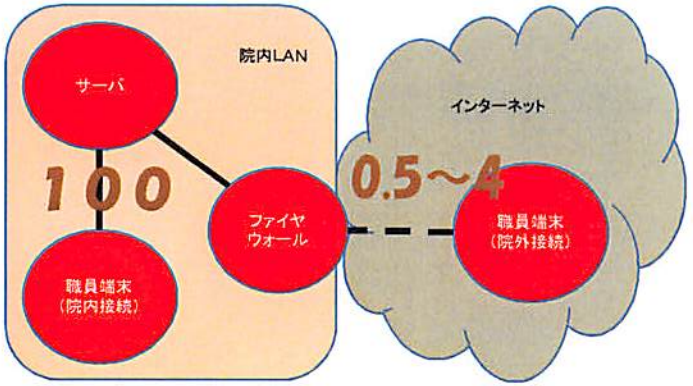
- 7月31日実施　第1回スピリチュアルケア
- 10月25日実施　施設と在宅医療についてTV会議
- 10月30日実施　第2回スピリチュアルケア
- 11月29日実施　第3回スピリチュアルケア
- 1月29日予定　臨床倫理について（グループワーク）
- 3月予定

2）在宅医療従事者の負担軽減の支援

- 24時間対応の在宅医療提供体制の構築
- チーム医療を提供するための情報共有システムの整備

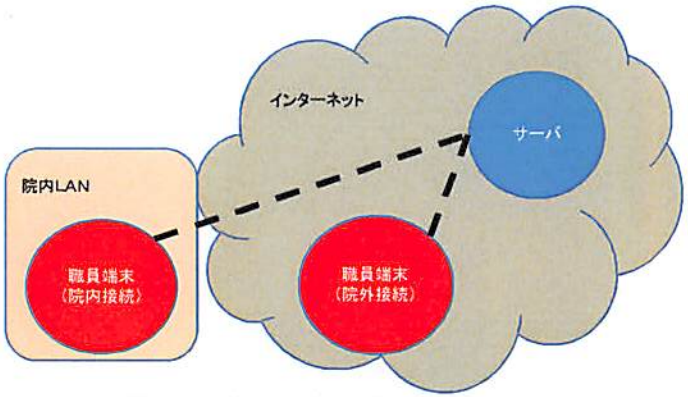
- 電子カルテシステムの導入

システム構成（旧）



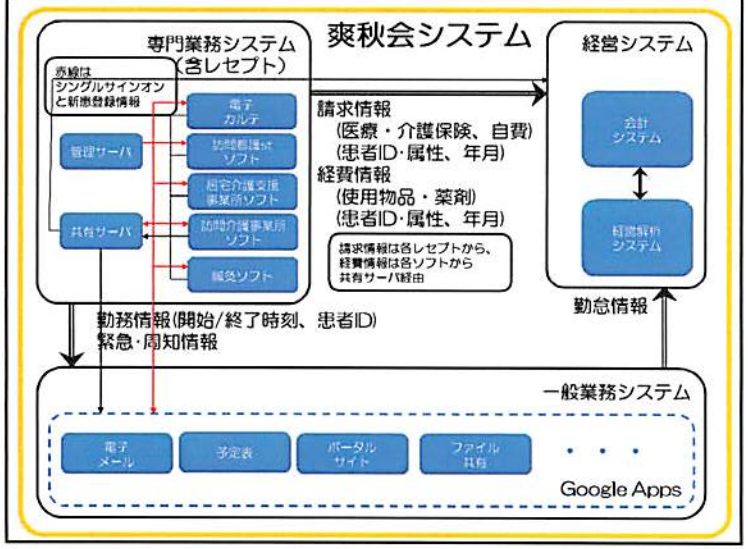
全ての資産が保守(24時間連続運用維持)対象

システム構成（新）



保守対象はクライアントのみ

爽秋会システム



3）効率的な医療提供のための多職種連携

- 連携拠点に配置された介護支援専門員の資格を持つ看護師等と医療ソーシャルワーカーが、地域の医療・福祉・保健資源の機能等を把握し、地域包括支援センター等と連携しながら、様々な支援を包括的かつ継続的に提供するよう関係機関に働きかけを行う。

- １２月　外部ケアマネジャーへのアンケート実施
- １月　病院へのアンケート実施
- １月末　アンケート回収予定
- ２月１５日　ケアマネジャー同士の情報交換会予定
- ２月中旬　情報集計予定
- ３月　ガイドブック作成予定

4）在宅医療に関する地域住民への普及啓発

- 仙台市太白区の地域住民を主な対象として、在宅緩和ケアをテーマに普及啓発活動を実施
- 宣伝方法：地域の情報誌（河北ウィークリー）を活用し、2週にわたって地域住民へ案内。
- 地域包括支援センターにも啓発依頼

- ⇒定員90名に対して約130名の参加希望あり。

5）在宅医療に従事する人材育成

- 連携拠点のスタッフは、多職種協働による人材育成事業の研修のいずれかに参加し、都道府県リーダーまたは地域リーダーとして、在宅医療に関わる人材の育成に積極的に関与すること。

- PEACEプロジェクトの指導者研修を終えた医師、日本緩和医療学会暫定指導医が、地域の研修病院の研修医や在宅医療に関わる各職種の指導に当たる。

平成24年度
在宅医療連携拠点事業活動報告

2013・1・26

石巻市立病院開成仮診療所
在宅医療連携拠点事業所

1

地域の概要

■ 宮城県石巻市

人口	152、158人
面積	555、78㎢
高齢者人口	40、502人
高齢化率	26、3%
要支援・介護認定者数	6、880人
要介護認定率	16、9%
医療資源 ・病院	7ヵ所
・診療所	87ヵ所
（うち、在宅療養支援診療所7ヵ所）	
地域包括支援センター	12事業所

石巻市公式ホームページより

石巻市の地域特性

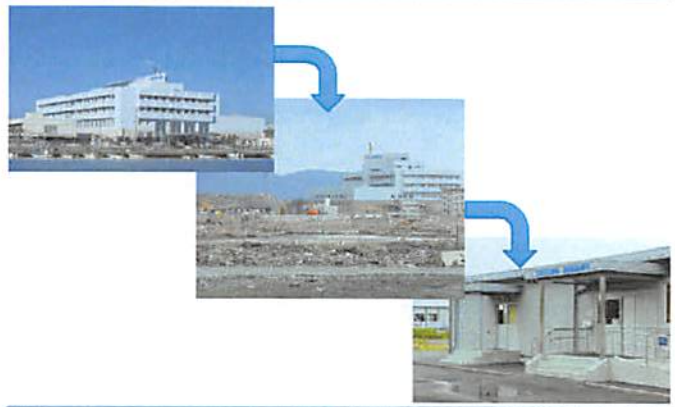
①1市6町で合併し（平成17年4月1日）、工業・農業・漁業までを幅広く含み、東京23区の2/3の広さである。

②石巻市は東日本大震災の最大の被災地である。（H24．12月末現在）

死者	3490人（関連死含）
行方不明者	453人
全壊家屋	18560棟
半壊・一部損	12706棟

石巻市公式ホームページより

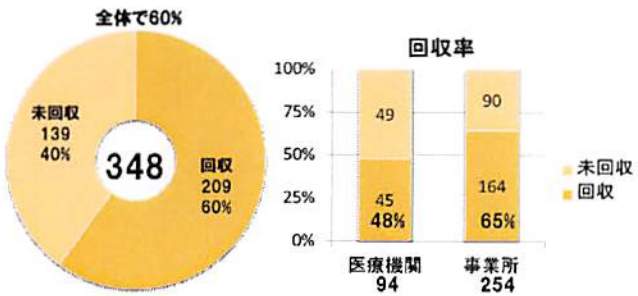
石巻市立病院から開成仮診療所へ



在宅医療連携拠点が行う事業

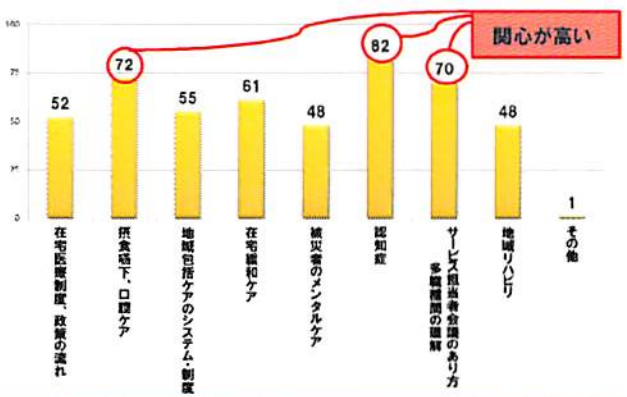
- 多職種連携の課題に対する解決策の抽出
  - アンケートの実施
    - 目的
      医療・介護資源調査
      連携課題の抽出
    - 調査期間
      平成24年9月8日(土)～9月17日(月)
    - 調査対象
      石巻市内の主な医療機関・介護サービス事業所等
      ◇348カ所
    - 方法
      調査用紙郵送による質問紙法

アンケート回収率



医療機関より、介護サービス事業所からの回収率が高い！

関心の高い勉強会～アンケート結果～



多職種連携の課題が明らかに

- 連携課題抽出のためのアンケート結果より(一部抜粋)
  - 医師会との連携は難しい
  - 医療職には会議への参加を依頼しづらい
  - 医療機関との壁を感じる、敷居が高い
  - 多職種での交流機会、情報交換が不足している
  - 情報が一方通行で情報の共有がされていない
  - お互いの業務領域が不明瞭

まとめ
- 医療機関との連携のむずかしさ
- スムーズな情報共有が不足
- 多職種間でのお互いの理解が不足
- 交流の機会が不足

在宅医療連携拠点が行う事業

- 多職種連携の課題に対する解決策の抽出
  - 多職種合同研修会の開催

回数	日程	主な内容	参加人数
第1回	10/27	地域包括ケアの推進について	99名
第2回	11/13	在宅における摂食嚥下・口腔ケアについて	124名
第3回	12/14	地域医療の連携 ～病院から診療所そして在宅へ	147名
第4回	3/初旬予定	認知症の理解と包括的医療ケアのポイント	―

第1回多職種合同研修会

- 日時:平成24年10月27日(土)13:30～16:10
- 場所:石巻合同庁舎 5階 大会議室
- 目的:地域の在宅医療に関わる多職種が一堂に会する場を設け、地域における連携上の課題の抽出と地域包括ケアへの理解を深める。
- 内容:
  (1)在宅医療と在宅医療連携拠点事業について
  石巻市立病院開成仮診療所 所長　長 純一
  (2)「在宅医療連携ガイド作成に関するアンケート調査」結果報告
  石巻市立病院開成仮診療所 在宅医療連携拠点事業担当 安達祥子
  (3)意見交換「石巻における多職種連携の課題について」
  (4)講演「地域包括ケアの推進について」
  講師 厚生労働省 老健局振興課 地域包括ケア推進係 係長 山田大輔
  (5)意見交換「多職種連携の課題に対する解決策について」

合同研修会意見交換会

第2回多職種合同研修会

- 日時:平成24年11月13日(火)18:00～
- 場所:石巻専修大学 4202教室
- 目的:地域の在宅医療、介護従事者等の多職種が研修会を通じて口腔ケアの知識を深める。また、多職種間で意見交換、情報共有できる場を設け、お互い顔の見える関係づくりを図る。
- 内容:
  (1) 報告「仮設住宅での歯科口腔保健事業」について
  石巻市健康部健康推進課 技術課長補佐 西條広子
  (2) 講演「在宅における摂食嚥下・口腔ケアについて」
  講師 広島大学非常勤講師ほか 牛山京子

第2回多職種合同研修会風景

第3回多職種合同研修会

- 日時：平成24年12月14日（金）18：30～
- 場所：石巻グランドホテル
- 目的：地域医療に携わる医療機関や介護事業所が、一堂に会する講演会や懇親会を開催することで、多職種連携を促進する。

内容：

（1）「石巻における地域連携の課題と今後」
　　石巻市立病院開成仮診療所　所長　長　純一

（2）「地域医療連携の基本姿勢」
　　北海道大学名誉教授　前沢政次

（3）ディスカッション

（4）懇親会

第3回多職種合同研修会

- ＊当事業からは懇親会費の計上が認められないため、他の病院と共催し、講演会と懇親会の開催をおこなった。

在宅医療連携拠点が行う事業

- 在宅医療に従事する人材育成
  - 問題点

    8～9月に市内の医療機関に行ったアンケート結果から、在宅医療に関心のある医療機関が少ない。人口と医療機関数、医師数の比較からもこの地域の医師数は少ない。

この地域の開業医の特徴は？

・代々続く開業医が多い

・後継者不在

・医師の高齢化が明らか

在宅医療連携拠点が行う事業

⇨被災地での将来的な在宅医療従事者増加のため

- 医師・医学生・看護学生の研修受け入れ　計12名
- 学会での講演、研修会での講師
- 学生セミナー開催　計2回

等を積極的に開催

その他の活動実績

■ 在宅医療推進活動（講演・講師）

講演タイトル	主催
在宅での看取り	家族医セミナー
安全と安心の地域医療を守るために	JA長野厚生連佐久総合病院
地域リハビリについて	宮城県東部保健福祉事務所
「日本における多職種連携による地域医療福祉の創意と工夫」	日本保健医療福祉連携教育学会
地域包括ケアのまちづくり	さわやか福祉財団
石巻の在宅医療の課題と今後	石巻赤十字病院
地域医療を通して石巻の再生を目指す	日本の医療を守る市民の会
がんの病診連携と在宅での看取り	石巻がん医療セミナー
地域包括ケアについて	さわやか福祉財団
地域の訪問診療について	岩手県立高田病院
病院・施設・在宅の看取り	宮城県涌田郡涌谷町
多職種連携による地域ケア会議の意義	宮城県長寿社会政策課
被災地石巻での活動	秋田県湖上南秋ケアネット
石巻における地域医療の課題と今後の展望	東北厚生局

被災地の特性を生かした支援

■ 仮設住宅における各種会議へオブザーバーとして参加

会議名	頻度	当事業所からの参加者
稲井地区エリアミーティング	1回/月	医師・看護師・理学療法士・社会福祉士
保健コーディネーター会議	1回/月	医師・看護師・社会福祉士
自治会連合会会議	1回/月	医師・社会福祉士
開成ボランティア会議	1回/月	医師・理学療法士・社会福祉士
石巻地区在宅ケア連絡会	1回/1～2月	医師・看護師・社会福祉士
リハビリテーション支援事業会議	3回/年	理学療法士
災害復興協議会会議	1回/月	医師・社会福祉士

稲井地区エリアミーティング→

今後の課題

- 地域ケア会議の開催支援
- 保険薬局、歯科診療所との連携
- 医師の増員により、他機関の在宅医療従事者に対する負担の軽減を図る
- チーム医療を提供するための情報共有システムの整備

みやぎ医療福祉情報ネットワーク（MMWIN）への参加

ご静聴ありがとうございました。

石ノ森まんが館

石巻の地酒

石巻焼きそば

平成24年度　在宅医療連携拠点事業　南東北ブロック活動発表会
平成25年1月26日(土)

ほたるの活動報告
～医師会モデル確立を目指して～

社団法人鶴岡地区医師会
在宅医療連携拠点事業室ほたる　島貫　設子

- 医療圏：鶴岡市・三川町（南庄内）
- 面積：1,344平方キロ
- 人口：143,797人（H24.3.31現在）
  （鶴岡市：136,146人　三川町：7,651人）
- 高齢化率（H24.3.31現在）
  鶴岡市：28.9%　三川町：28.5%
  （全国平均：23.0%　山形県：27.6%）

※（）内はH22年国勢調査時点のデータ

- 中核病院：鶴岡市立荘内病院（520床）

タスク１
多職種連携の課題に対する解決策の抽出

タスク1　多職種連携の課題に対する解決策の抽出

多職種が一堂に会する場の設定

【ほたる多職種研修会】　参加者合計　約４５０名

	開催日	テーマ	講師	参加者
1	7月18日	脳卒中	病院医師	137名
2	8月22日	糖尿病	病院医師、薬剤師、栄養士	105名
3	10月3日	リハビリ	病院医師、老健PT、訪問リハOT	151名
4	2月15日	エンゼルケア	緩和ケア認定看護師	50名位

【その他　共催・後援した研修会】

	開催日	会の名称	参加形態	参加者数
1	5月21日	第1回南庄内在宅医療を考える会	共催	29名
2	8月2日	第1回医療と介護の連携研修会	共催	181名
3	10月15日	第2回南庄内在宅医療を考える会	共催	22名
4	11月22日	第2回医療と介護の連携研修会	共催	137名
5	12月9日	在宅歯科医療と口腔ケアについての多職種連携研修会	後援	1部2部合計169名
6	12月14日	鶴岡協立病院　高齢者・認知症ケア推進委員会発足記念講演会	共催	140名
7	2月14日	在宅訪問歯科診療報告会	共催	

意見交換会は3月に実施予定

タスク1　多職種連携の課題に対する解決策の抽出

課題：歯科医へ繋ぐ窓口がない→口腔ケア提供体制の構築

訪問歯科診療相談窓口の設置

- 戸田地区歯科医師会との定期的なミーティング（毎月第4月曜日13:00～）
- 「訪問歯科診療のご案内」のパンフレットを医療機関等に配布（1,000部）
- 在宅訪問歯科診療運用状況の報告会を共催予定（2月14日）

訪問歯科診療申込み件数（ほたるを通した分）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
0	1	3	0	0	1	1	1	1	0	8件

回復期リハビリテーション病院への歯科介入

回復期病院に入院している脳卒中パス患者を対象に歯科医師会で作成したチェックシートを用いた、　看護師による歯科スクリーニングを実施　（10月1日より運用開始）

➢回復期病院と歯科の会議を開催（現在５回開催済み）

«10月・11月の歯科治療希望者状況»

	脳卒中パス新入院患者数	歯科治療実施者数
１０月	１２名	１名
１１月	７名	３名
１２月	１２名	２名

タスク1　多職種連携の課題に対する解決策の抽出

課題：地域の各種会を集約する窓口がない→学習会集約窓口を設置

地域内の医療介護全般に関する各種学習会やイベントの予定を、ほたるホームページ上で集約して周知することを7月から開始。イベントコーディネーター役を担う

タスク２
在宅医療従事者の負担軽減の支援

タスク2　在宅医療従事者の負担軽減の支援

課題：訪問看護のマンパワー不足→訪問看護師へのアンケート調査

1回目アンケート

【目的】訪問看護師の本来的業務・役割の見直しを行い、訪問看護師の負担を軽減する対策を講じる

【対象】当地区の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師２１名

2回目アンケート

【目的】１回目アンケート結果から課題となった項目の業務内容を調査する

【対象】当地区２箇所の訪問看護ステーション

«訪問看護業務の課題»

課題	対策
薬剤師との連携強化	薬剤師会との話し合いの場を設定
看護記録等の事務的業務の軽減	看護記録システムの開発を検討

«まとめ»

- 課題の把握はできたが、訪問看護師の負担を軽減するための具体的な対策を講じるまでには至っていない
- ２つの訪問看護ステーションが、統一した看護記録システムを開発することも視野に入れる

タスク2　在宅医療従事者の負担軽減の支援

課題：訪問服薬指導を実施する薬局の不足と医師の理解不足

薬剤師会で実施した訪問服薬指導等に関するアンケート結果

年度	総数	対応可能	応相談	不可	無回答
H23年度	55	11 (20%)	23 (41.9%)	21 (38.1%)	0 (0%)
H24年度	56	10 (17%)	24 (42.8%)	16 (28.5%)	6 (10.7%)

«考察・対策»

①訪問服薬指導の実施状況に昨年度との**大きな変化はない**（鶴岡・三川）

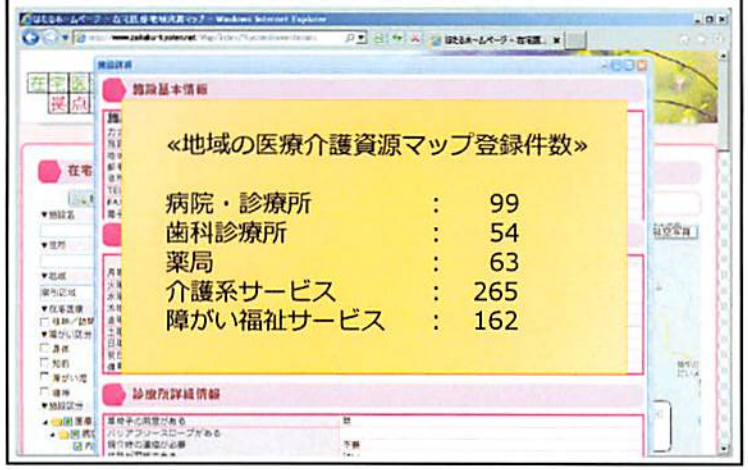
②訪問可能時間や訪問範囲、時間外対応、退院カンファレンスへの参加体制の有無等、今年度の**アンケート内容に在宅医療に関する情報を追加**して調査していただいた

③アンケート結果をもとに、在宅医療の推進に関する**薬剤師会との話し合いの場**を設ける（2月から）

タスク2　在宅医療従事者の負担軽減の支援

課題：組織横断的な情報共有体制が構築されていない→

在宅医療地域資源マップのホームページでの公開



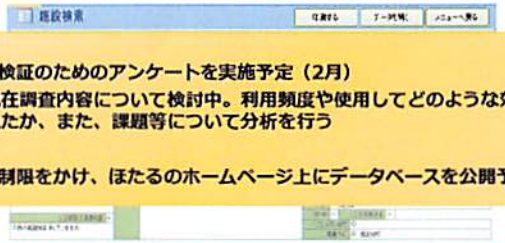
タスク2　在宅医療従事者の負担軽減の支援

患者情報共有ツールの活用と展開

タスク3
効率的な医療提供のための多職種連携

タスク3　効率的な医療提供のための多職種連携

医療依存度の高い方の施設受入れ情報データベース



- 効果検証のためのアンケートを実施予定（2月）
  - 現在調査内容について検討中。利用頻度や使用してどのような効果が得られたか、また、課題等について分析を行う
- 閲覧制限をかけ、ほたるのホームページ上にデータベースを公開予定（3月）

退院カンファレンスへの参加（急性期病院の緩和ケアカンファレンス）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
1	2	0	0	2	2	0	0	0	0	7件

緩和ケアカンファレンスの開催自体も減ってきている。また、他の疾患の退院前カンファレンスへも参加できるように、病院側から理解してもらうことも必要となっている

タスク3　効率的な医療提供のための多職種連携

地域包括支援センターつくしとの連携　　山形県地域ケア会議等 広域支援員等運営会議

- 地域ケア推進担当者会議への参加
  （毎月第１水曜日）
  参加者：行政保健師、市社協地域福祉課、
  地域包括支援センターつくし、ほたる
- 地域ケアネットワーク会議　４回
- 介護者のつどい　２回
- 町内会ごとの集会等　６回
- 地域で開催される会へ積極的に参加し、ほたるの周知、地域課題に対する医療的助言、参加者からの相談に対応した
- 包括との連携を継続していくことが、包括と拠点のより良い関係づくりに繋がる

«趣旨»

- 地域包括支援センターのコーディネート機能の強化を支援する
- 山形県の地域包括ケアシステムの構築するため必要な事項を定める
- 広域協力機関として参加

今までの活動から得た経験を生かし、オブザーバー的立場で意見や助言等を行っている

タスク3　効率的な医療提供のための多職種連携

行政との連携

- 定期的なミーティング（毎月第１月曜日13：00～）
  出席者：庄内保健所、鶴岡市長寿介護課地域包括支援センター
- 医療と介護の連携推進担当者会議への出席（研修会企画会議）
- 鶴岡市地域包括支援センター連絡会が行った「介護支援専門員業務実態に関するアンケート」に、昨年度作成した「在宅療養者支援のための連携シート」活用についての項目があり、結果をフィードバックする

利用状況	人数
いつも利用している	９名
ときどき利用している	５５名
全く利用していない	６８名
合計	１３２名

理由

- 近隣医師との連携はとれている
- ケアマネ個人の所有物ではないため、冊子があることさえ分からないでいる

- その他共催した活動
  …鶴岡市主催「福祉体育祭」で包括の利用方法を寸劇で演じ、展示やアナウンスで訪問診療や介護サービス、ほたるのPRを行った（参加者780名）

タスク3　効率的な医療提供のための多職種連携

ショートステイ空き情報提供

情報提供事業所数　：２３
閲覧事業所数　　：４８（居宅介護支援事業所、病院地域医療連携室など）

短期入所空き情報

【表の説明】●：十分に利用ができる（３名以上）　▲：多少の空きがある（１～２名）　×：短期入所サービスの空きなし

サービス事業所名	電話番号	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10
地寿園（多床室） NEW	25-2881	×	×	×	×	▲	▲	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	▲
地寿園（個室） NEW	25-2881	×	×	×	×	▲	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
永寿荘 NEW	25-6111	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	▲	×
おおやま	38-0250	×	×	×	×	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	▲	×
しおん荘 NEW	76-3735	×	×	▲	▲	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
鶴寿荘	43-2351	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ふじの花荘 NEW	64-5880	×	▲	▲	▲	▲	▲	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
かみじま（多床室） NEW	62-2233	●	●	●	●	×	×	●	▲	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×
かみじま（ユニット） NEW	62-2233	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	▲	▲
鶴寿荘 NEW	57-3222	×	×	×	×	×	×	×	×	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×
かたくり荘	53-2300	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	▲	▲	▲	×	×	×	×	×
ふなの杜 NEW	58-1535	×	×	▲	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
なの花荘（個室） NEW	66-4831	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
なの花荘（二人室） NEW	66-4831	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
のぞみの園 NEW	25-8255	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
サテライト老健のぞみ NEW	25-8255	×	×	×	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
サテライト老健ちわら NEW	25-8255	×	×	×	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
かけはし（療養介護） NEW	25-1131	×	×	×	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ショートステイかけはし（生活介護） NEW	25-1131	×	▲	▲	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

アクセス数：1,097件
（H24.4月～H25.1月18日現在）

タスク3　効率的な医療提供のための多職種連携

利用状況アンケート調査中間報告（H25年1月実施）

情報提供側
（21事業所中13事業所からの回答）

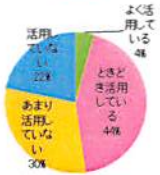
閲覧側
（44事業所中24事業所からの回答）

Q、ショートステイ空き情報を介した問い合わせを受けたことがありますか

Q,この情報は必要だと思いますか

Q、この情報を介した問い合わせを受け、実際利用したケースはありましたか

Q,ショートステイの空き情報を活用していますか



タスク4
在宅医療に関する地域住民への普及啓発

タスク4　在宅医療に関する地域住民への普及啓発

住民向け啓発活動

- **住民向けリーフレットの作成**
  7月に2,000部発行→1,200部以上配布済み
- **ニュースレター「ほたる便り」の発行**
  年4回のうち2回発行済み、各450部
- **鶴岡市主催「市民健康のつどい」への参加**
  204名から展示閲覧後アンケート実施
- **地域で行われる会議や活動に参加しての展示等PR**
  - 庄内プロジェクト市民公開講座
  - 庄内地域医療連携の会市民公開講座
  - 鶴岡市主催福祉体育祭　　など

在宅医療に関することや「ほたる」についての普及啓発だけではなく、地域住民からの声を直接聞ける良い機会であった

タスク4　在宅医療に関する地域住民への普及啓発

総合相談窓口

相談件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H24年度件数	7	2	6	6	7	9	7	3	9	2			58
うち地域住民	1		1		2		1			1			6
H23年度					2	1	1	2	3	8	3	9	29

相談元（機関別）

機関名	件数
医療機関	18
地域包括支援センター	3
居宅介護支援事業所	25
小規模多機能施設	1
訪問看護事業所	2
グループホーム	2
障がい者支援センター	1
地域住民	6

内容（上位5つ）

内容	件数
地域資源の情報提供	17
相談支援	14
医療依存度の高い方の入所先	10
入所施設について	9
往診医について	8

タスク５
在宅医療に従事する人材育成

人材育成

«人材育成に関する地域の課題»

- 職種間の知識不足
- 医療・福祉・介護に携わる多職種が一堂に会して学ぶ機会が無い
- 特にケアマネジャーの多くが福祉職で、医療の知識に対する不安を持っている

«実施・予定している活動»

- 多職種対象研修会（年４回）
- 医療と介護の連携研修会（年２回）
- 東京都連携実務者協議会からのパネリスト依頼
- 他地域からの要請による講演

«都道府県リーダーとして地域リーダー研修»

山形県では今年度１市１村で実施予定とのこと。ただ研修そのものの内容・期日も定まっておらず、拠点事業としての関わりも今のところ未定

出張勉強会

きっかけ…

ケアマネからほたるへの電話相談

↓

開催前に…聞きたいこと・学びたいことを事前に知るべく、事業所にアンケート調査を実施

↓

アンケートの内容より、福祉については行政担当部署に、在宅医療については訪問看護師から情報を収集

↓

ほたるのスタッフ（看護師・相談員）が事業所へ出向き、勉強会を開催

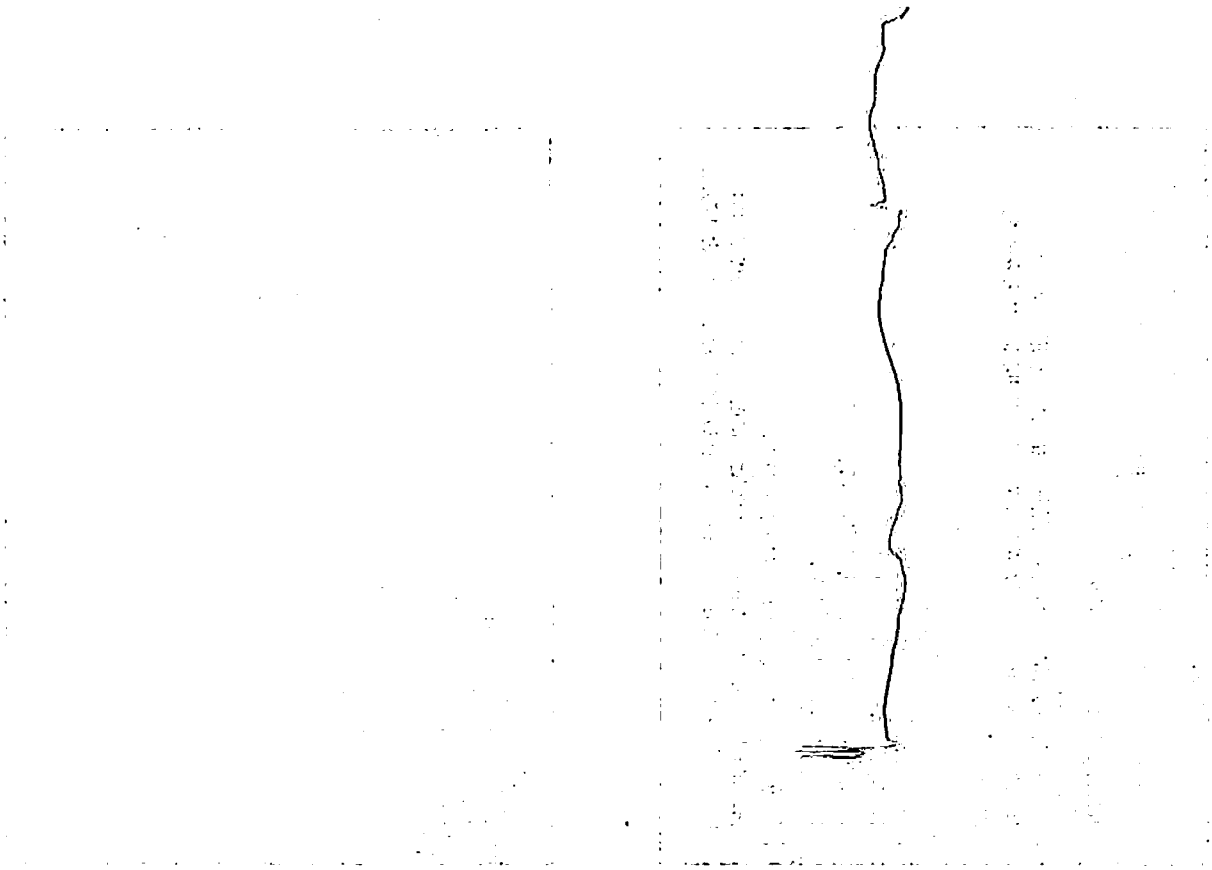
（参加者）
居宅介護支援センター・包括支援センター職員…７名

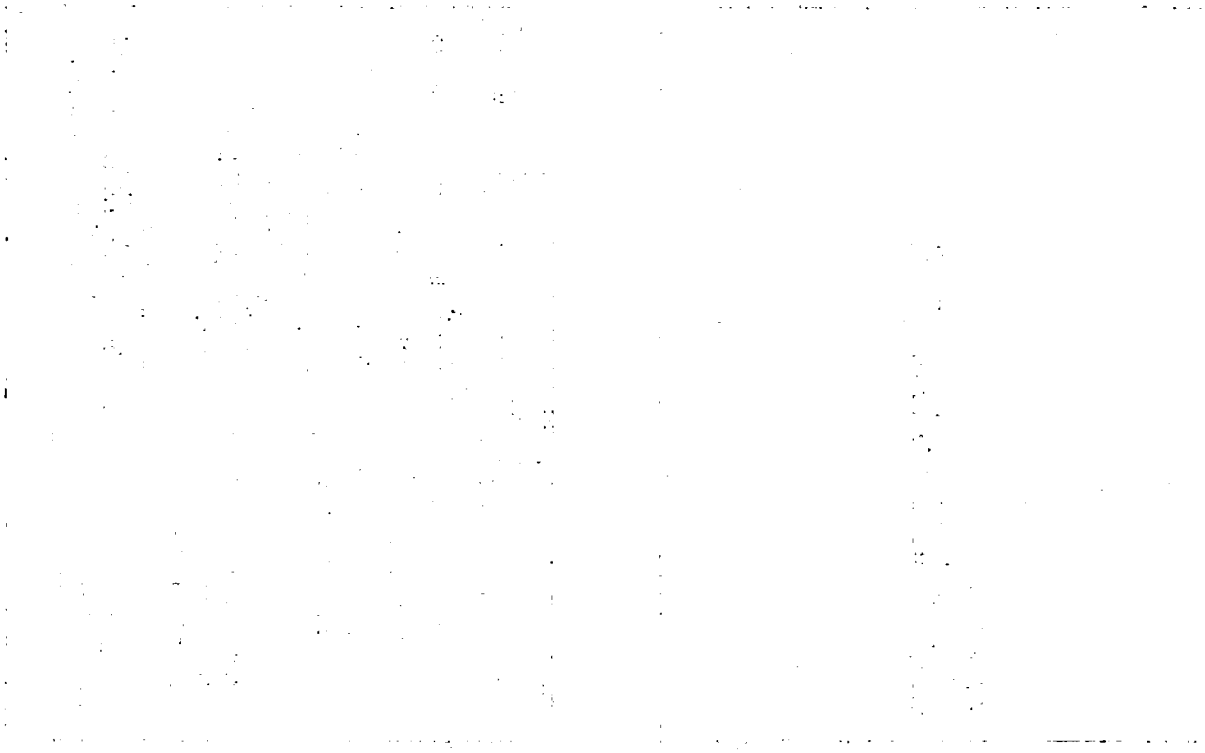
（講師）ほたる　２名

«参加者の感想»
・基礎資格が介護職のケアマネは医療に弱いため、医療サービスに繋げられないということはケアマネジメントに大きな不安を抱えている
・ケアマネ対象に研修会等多数行われているが、大きい規模ではなかなか聞けないことを勉強会として開催したいといった希望に応えてくれる場所があって心強い

«まとめ・今後の予定»
・ケアマネ個人、事業所ごとに医療に関する知識が不足していると感じた。その底上げをどのようにしていくべきか検討が必要
・出張勉強会の開催について地域全体に周知する

ご清聴ありがとうございました





福島県東白川郡における「在宅医療連携の課題」

平成25年1月26日
「多職種連携事業進捗報告」
「南東北ブロック発表会」
於　山形県鶴岡市

JA福島厚生連　塙厚生病院
事業担当責任者　星　竹敏（医師）
嶋田富枝（看護師兼ケアマネージャー）

福島県東白川郡の概要

平成24年9月現在

福島県東白川郡位置図

福島県内位置図
（1．棚倉町2．矢祭町3．塙町4．鮫川村）

人口　34300人（平24推定）
人口密度　55.3人/km²
高齢化率　30%以上
（平22:棚倉町以外）
人口減少率　5.8%
（平21:若年層はもっと高く、県内ワースト1）

塙厚生病院全景
福島県東白川郡塙町大字塙字大町1丁目5番地

塙厚生病院を中心とした地域医療、福祉、介護機関

H24年9月現在

病院

急性期
- ○白河厚生総合病院
- ○白河病院
- ○緑会南東北病院
- ○太田西ノ内病院
- ○県立福島医大病院
- ○その他
- ○星総合病院
- ○勝美賀総合病院
- ○坪井病院
- ○公立岩瀬病院
- ○福島病院

療養型病院
- ○東田病院
- ○ひがた中央病院
- ○桜美賀病院
- ○会田病院
- ○田口病院

回復期リハビリ病院
- ○会田病院
- ○春日リハビリテーション病院
- ○太田熱海リハビリテーション病院

診療所
- ○中島医院（塙町）
- ○東白川中央医院
- ○大木医院
- ○あらまちクリニック
- ○和田医院
- ○あおの整形外科クリニック
- ○藤田医院
- ○村山耳鼻咽喉科皮膚科
- ○金澤医院
- ○木村医院
- ○東舘診療所
- ○鮫川村医民健康保険診療所
- ○ふるどのクリニック
- ○中島医院（石川町）
- ○大野診療所
- ○田中内科医院
- ○角田内科医院
- ○緑ヶ丘さくら診療所
- ○表郷クリニック
- ○その他

訪問看護、リハビリ
- ○はなわ訪問看護ステーション（訪問リハビリ塙厚生病院内）
- ○ながわケアサービス訪問看護（東白川中央医院）
- ○すいせん訪問看護ステーション

塙厚生病院 地域医療連携室窓口

各市町村 地域包括支援センター

居宅介護支援事業所
- ○塙厚生病院居宅介護支援事業所
- ○塙町社会福祉協議会居宅介護支援事業所
- ○ユーハイム居宅介護支援事業所
- ○JA東西しらかわ居宅支援事業所
- ○棚倉町社会福祉協議会（しあわせ指定居宅介護支援事業所）
- ○寿恵園（寿恵園居宅介護支援事業所）
- ○矢祭町社会福祉協議会居宅介護支援事業所
- ○ユーアイホーム（ユアイホーム居宅介護支援事業所）
- ○鮫川村（ひだまり荘）（鮫川村高齢者総合福祉センター）
- ○ひろみちゃん居宅介護支援事業所

施設

（老人保健施設）
- ○久慈の郷
- ○上志宝台
- ○表郷 聖・オリーブの郷
- ○ひもろぎの郷
- ○ニコニコリハビリ
- ○小峰苑
- ○オルキス
- ○プロヴィデンス
- ○やすらぎ

（特別養護老人ホーム）
- ○ユーハイムはなわ
- ○寿恵園
- ○ユーアイホーム
- ○ユーハイム矢祭
- ○特養「ひめかわ」
- ○ひぎそう
- ○さくら荘
- ○ふるどの荘
- ○久慈の里
- ○久慈川荘

（グループホーム）
認知症対応型共同生活介護
- ○グループホームさのがわ
- ○グループホーム東の広場
- ○グループホーム上志宝台
- ○グループホーム志宝台
- ○グループホームふくじゅそう
- ○グループホームひもろぎの郷

（その他の施設）
ケアハウス
- ○せせらぎ荘

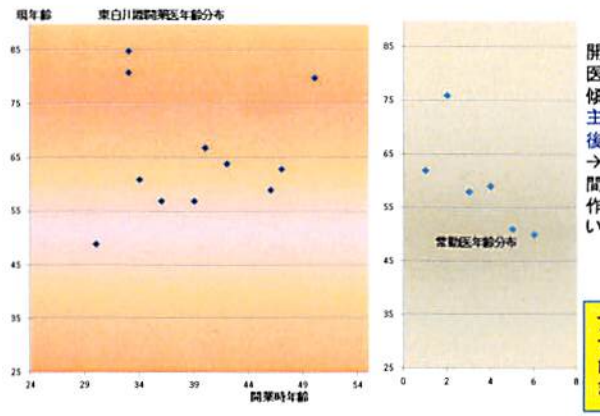
養護老人ホーム
- ○ユーハイムやみそ
- ○表生園

生活支援ハウス
- ○ひだまり荘

塙厚生病院 地域医療連携室
Tel.0247431382 / Fax0247434450

数はあるように見えるが、どこも人手不足で、医療介護の質や稼働率が低い

東白川郡在住医師年齢

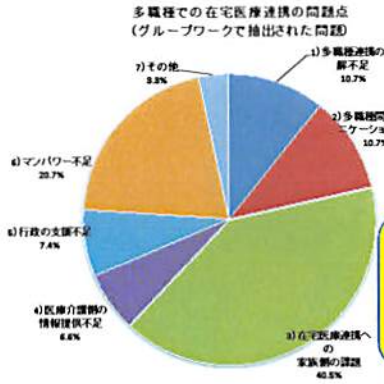


開業医も勤務医も殆ど同じ傾向にあり、主力が60歳前後となっている→これで24時間往診体制を作ることは難しい

アンケートで往診可能は65歳までと出た

在宅医療連携での地域特性問題

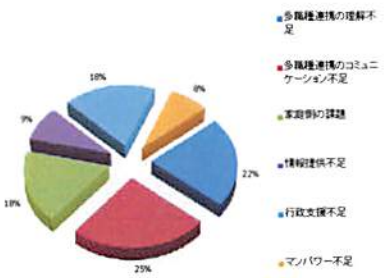
東白川郡での在宅医療連携への課題



平成24年11月20日の多職種連携の第1回会議(郡内医療介護及び行政関係者117名出席)の際のその時点で感じた出席者の「不安点」アンケート分類

第一位は、この在宅医療連携という理念や仕組みを「住民が理解し受け入れてくれるのか」という不安(40%)で、第2位が「マンパワー不足(20. 7%)」であった

全国の拠点事業者は在宅医療連携への課題をどう見ているか



全国平均で見ると、当郡で圧倒的であった「住民の理解への不安」や「マンパワー不足」等より、「多職種間のコミュニケーション不足」、「多職種連携そのものの理解不足」を問題視している(≒人はいるが機能してない)所が多い

(平成24年11月末 事業進捗状況報告より集計:問題点の振り分けは星が直感で行った)

地域特性の考察

1)平均値で見ると解らなくなってしまうが、都市部よりは郡部で「マンパワー不足」、「住民側の理解不足」の方が上位の傾向があった。

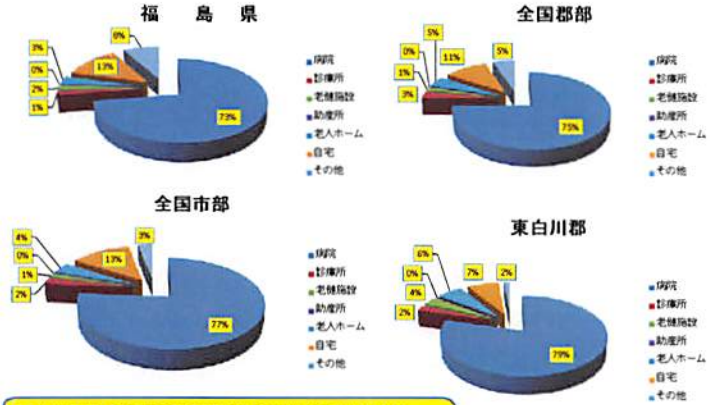
2)自宅での死亡率が鹿児島の郡部では9. 1%と全国平均の13%より低く、当郡(7%)と同じ傾向が出ていた。
この国は郡部ほど「安定していたはずのムラ社会」の崩壊(助けあい的共同体の消失)が実は進んでおり、一部の郡部は都市部よりも先に「孤立無援社会」になってしまっている。

3)「人の助けのない社会での在宅介護」を覚悟すべき時代に我々は直面しており、中でも東白川郡はもう「待ったなし」の状況にある地域である。従って、全国のまだ余裕のある地域と同じ進行手段では、住民福祉に遅れを取ると考えた。
→厚労省在宅医療連携拠点事業での補助希望のメインを「iPadでの情報共有形式」にしたのは、この理由である。

超高齢化社会（多死社会）への対応

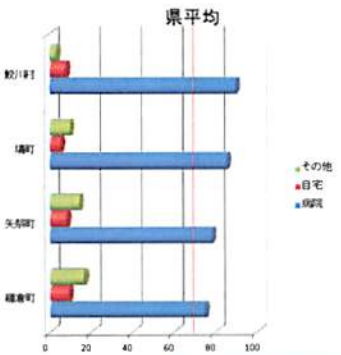
当郡での看取りの現状

死亡場所比較図（平23統計）



東白川郡は全国市部を上回る病院依存型といえる
自宅死亡例は全国や県平均の半分しかない

平成23年度東白川郡町村別 死亡場所比較



4町村似てはいるが、鮫川村の病院依存度の高さと塙町の自宅死亡例の少なさが立っている。

福島県の病院での死亡例の平均73%（左図点線）から比較すると、病院依存がこの地域では目立っている

風土と言うよりは、家庭の介護力低下（介護者がそもそもいない）のために、自宅では看取りをできない人が多いのだと推定

まとめ

1. 当地域は気がつかないうちに、社会構造変化（伝統のムラ社会の崩壊）の最先端を走る地域となってしまった（家庭の介護力低く（親族の援助が少ない）、県内最低の在宅看取り率（7%）！→もしかしたら全国でも最低地域?）
2. それでも関係者の指摘では、住民にその社会変化への覚悟がなく（家庭側の課題が一番の問題とするグループワークの結果より）、人まかせの態度が目立っている
3. 在宅医療連携で足り無い人材は都会よりの短期借り入れという発想が、この地域には必要かもしれない
→「孤立無援死」を防げるだけの人員は確保したい！

→ 参考; 塙町3300世帯のうち、65歳以上の独居老人世帯が317ある（田舎は広域に散在という問題がある）（平成24年9月現在）

NPOが挑む！
まちなか連携室

福島県
しらかわ在宅医療拠点センター

NPO法人
しらかわ市民活動支援会とは？

公設民営のボランティア団体です

NPOとしての活動の原点

地域づくり

- 地域住民のための活動
- 市民活動団体への支援
- 医療・福祉の分野を積極的に活動してきた

どんな活動してるの？

旧市街地が国道294号線沿いにあることから

ふくし
294委員会

障害者を自立させ街に出そう！

独居老人の看取り不安を解消

在宅あんしんネット委員会

参加者

消防署、市町村、県南保健福祉事務所、
医師会、社会福祉協議会、民生委員、NPO、
介護支援専門員、など

在宅あんしんカード　580名を登録

在宅あんしんカード

登録番号			（　年　月　日 作成）		
ふりがな			生年月日	明治	年　月　日生
氏名		男		大正	
		女		昭和	
郵便番号 住所			電話番号		
かかりつけ医					
			電話		
注1 連携往診医					
			電話		
注2 訪問看護ステーション					
			電話		
注2 介護支援専門員					
			電話		

※注1：記入の必要はありません。
注2：民生員の方は記入の必要はありません。

高齢者、障がい者の送迎や緊急時の対応

みんなの交通システム研究会

参加者

消防署、市町村、県南保健福祉事務所、
医師会、社会福祉協議会、民生委員、NPO、
白寿会、など

しらかわ救急情報センター

日曜祝日の救急医療の電話相談案内

午前9時～午後5時

他には？

子育て支援

おひさまひろば

ボランティア養成

病院ボランティア

マイタウン運営

などなど

福島県

しらかわ在宅医療拠点センター

平成24年度　活動内容

スタッフ構成

在宅療養支援診療所	穂積医院	穂積彰一
医療ソーシャルワーカー	社会福祉士	岡崎隆史
ケアマネの資格を持つ看護師		藤田真千子
看護師		服部幸子
看護師		有賀啓子
看護師		関　直子
しらかわ在宅医療拠点センター	事務長	降矢桝美
	事務員	五十嵐佐知子
	事務員	瀬戸千代美
顧問ボランティア	薬剤師	富永　章

先ずは顔の見える関係づくりを

訪問した事業所　　総数　267ヶ所

包括支援センター	5	居宅介護事業所	39	訪問事業所	27
訪問看護ステーション	6	介護老人保健施設	6	介護老人福祉施設	7
小規模多機能型居宅介護事業所	3	短期入所生活介護施設	14	短期入所療養介護施設	6
認知症対応型通所介護施設	3	通所介護施設	19	訪問リハビリテーション	3
通所リハビリテーション	3	訪問リハビリテーション	3	福祉用具販売事業所	10
福祉タクシー事業所	6	各種障がい者支援事業所	102		

多職種への連携づくり

在宅医	7月25日　8月21日　9月20日 11月21日12月19日	県医師会	12月5日
勤務医	7月25日　9月20日 9月22日　11月21日	県南保健 福祉事務所	7月25日　11月21日 12月6日
歯科医師	8月1日	市町村	7月25日　8月21日 11月21日　12月7日
薬剤師	7月25日　12月13日	社会福祉 協議会	7月25日　10月11日 11月21日
介護支援 専門員	（2月16日）	包括支援 センター	7月25日　10月18日 11月21日　12月21日
訪問看護 師	7月25日　8月30日　11月15日 11月21日12月19日　1月23日	介護職員	11月15日 12月6日
訪問 介護士	11月15日　12月13日	障がい者 相談員	8月21日

地域住民に対する啓発活動

7月28日	新聞掲載 福島民報社 県内発行部数　250,000部
8月1日	白河市「広報」に掲載 市内全戸20,000戸
8月20日～	しらかわ市民活動支援会のホームページに掲載
9月6日	チラシ配布 市内全戸配布20,000部
9月10日	しらかわ市民活動支援会機関紙 「ニュースレター」に講演会開催を掲載
9月28日	講演会開催　白河市立図書館にて

一般市民や事業所からの相談事業

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
相談 件数	2	11	14	8	3	1

毎日　午前9時～午後5時

時間外は留守電で対応

相談内容

＊入院中だが、退院後の生活が心配（特に高齢者の2人暮らし）
（老老介護・施設の紹介を希望）

＊入院中だが、退院後の在宅医がいなかったらどうするか心配
（在宅医の紹介を希望）

＊施設に入所したいが空きがないといわれた。
高齢のため在宅介護も難しい（施設紹介を希望）

＊在宅でいるが、急変時に希望の病院に入院できるかどうか心配
（再入院の際の病院を心配）

＊看護師が不足している。なにか補充とか方法はないか
（看護師の紹介を希望　　＊ハローワークも困難）

＊食事が摂取できないくらいでは、入院はさせてもらえないという
心配

当センター看護師による訪問看護

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
訪問件数	0	4	9	14	9	1

男性6名　女性7名

無料提供による問題もあり

在宅医療・福祉連携ガイドを作成

市町村への提言

1	この事業を継続するために市町村の協力をお願いしたい
2	すでに白河医師会の理事会において承認されているので、医師会との契約でお願いしたい
3	市町村は行政の役割として拠点事業での様々な問題について適切に指導していただきたい
4	拠点事業における市町村の担当者を一本化していただきたい
5	拠点事業が経営的に継続できるように核となる複合型サービス（小規模多機能型居宅介護+訪問看護）を設置してほしい
6	24時間体制で医療、介護サービスができる在宅医療を促進させるために、保険でタクシー利用ができるようにしてほしい

訪問看護ステーションの業務概要

1997年4月1日に訪問看護ステーションを開設。

併設施設として特別養護老人ホーム・短期入所生活介護・24時間365日訪問介護・3食365日配食サービス・通所介護・居宅介護事業所など複合サービス内に独立事業所として運営し、現在市内を二分化した形で本体ステーションとサテライト事業所で運営をしている

↓

開設時より24時間連絡・対応体制で療養者の生活支援や在宅ターミナルの支援にも当たっている。

訪問看護ステーションの状況と特色

職員状況
　看護師11名（常勤換算：9.1名）
利用者の保険別状況
　介護保険対象者が約9割を占める

＊サテライト事業所を1ケ所を持つ
＊グループホーム3ケ所と事業所契約を交わし健康管理
＊短期入所生活介護事業所と契約し在宅中重度者受入加算の体制対応
＊定期巡回・随時対応型訪問介護看護と連携型を契約予定
＊複合型サービスを予定

医療と介護の橋渡し的な役割が特色

平成24年度　こぶし訪問看護ステーションにおける在宅医療連携拠点事業経過

5月	・在宅医療連携拠点事業（復興枠）採択	11月	・第4回拠点委員会開催（災害対応について）
6月	・医師会をはじめ他職種団体機関等へ説明・挨拶・検討委員依頼	12月	・第5回拠点委員会開催（タブレット端末）について
7月	・第1回拠点委員会開催 ・他事業者セミナー参加	1月	・第2回拠点事業セミナーの開催 ・第６回拠点委員会開催（タブレット実装に向けた検討）
8月	・第2回拠点委員会開催	2月	・情報共有システム実装（予定） ・他職種研修会への参加（地域包括・地区ケアマネ協議会）
9月	・アンケート調査（タブレット、連携の現状と課題調査） ・第3回拠点委員会開催	3月	・災害セミナー（予定） ・地域リーダー研修 ・「在宅医療推進マニュアル」の作成
10月	・都道府県リーダー研修の参加 ・第1回拠点事業セミナーの開催		

具体的な取り組み1

1、他職種連携の課題に対する解決策の抽出

・定期的な検討会議の開催(計6回実施)
多職種間が定期的に顔を合わせることで、顔なじみとなり関係性や連携が図られるようになった。

・対象地域内各事業所へ連携の現状把握と課題の抽出のためのアンケート調査を実施

在宅医療連携拠点事業における各事業所へのアンケート調査の実施

目的:医療・福祉関係機関に対しての、連携の状況把握と課題の抽出
:本事業対象エリア内の福祉・医療関係者
:124事業所に送付し、137名より回答

調査対象機関

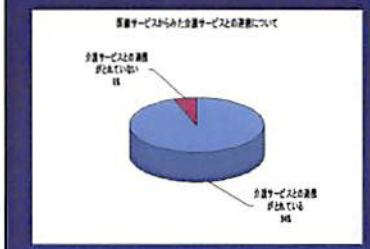
介護サービス
- 介護老人福祉施設
- 介護療養型医療施設
- 地域密着型介護老人福祉施設
- 特定施設入居者生活介護
- 短期入所生活介護
- 通所介護
- 通所リハビリテーション
- 認知症対応型通所介護
- 訪問介護
- 居宅介護支援事業所
- 訪問入浴介護
- 地域包括支援センター
- 認知症対応型共同生活介護
- 小規模多機能型居宅介護
- 夜間対応型訪問介護
- 福祉用具貸与

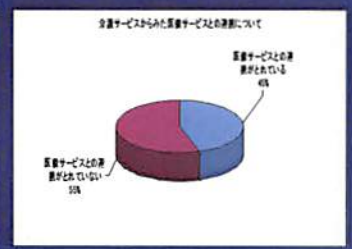
医療サービス
- 病院
- 医院(内科)
- 訪問看護
- 訪問リハビリテーション

調査対象職種

- 医師
- 看護師
- ケアマネージャー
- ケアワーカー
- ソーシャルワーカー
- PT/OT
- その他

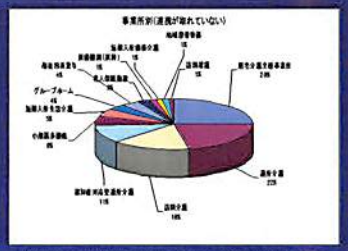
医療・介護サービス間の連携状況について

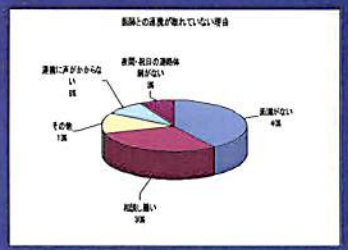




全体的に連携はできているが、介護側からみた医療との連携が(特に医師)との連携少しとられていない結果であった。

医師に対する連携状況について

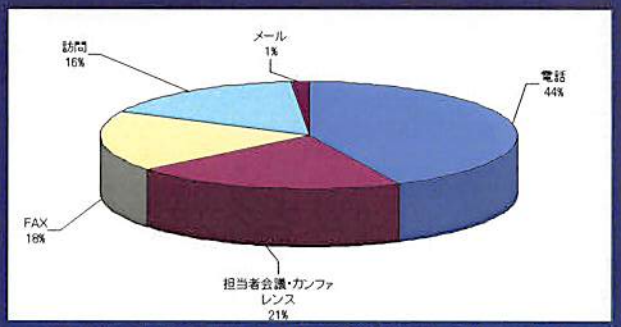




医師との連携が取れている事業所は医療系や福祉系でもGH・特養など入所系が半数以上を占めている。入所系に関しては、かかり(主)医の往診や嘱託医との関係で連携ができているものといえる。反面、連携が取れていないと感じている事業所は居宅介護支援事業所(ケアマネージャー)を筆頭に介護サービスが大多数を占めている。

医師との連携が取れていない理由にとしては、面識がない、相談し難い等医師への敷居の高さからくる理由があげられている。
その他であがった項目としては、
・忙しさを考えて遠慮してしまう
・(医療の)知識が乏しく躊躇してしまう
・(医師側に)関わろうという姿勢を感じない
・開業医とは連携ができるが、総合病院の医師とは難しい

情報共有の方法



電話・FAX及び会議や訪問しての直接的な情報のやり取りが主となっている。
リアルタイム性や効率性の面からの課題が抽出。

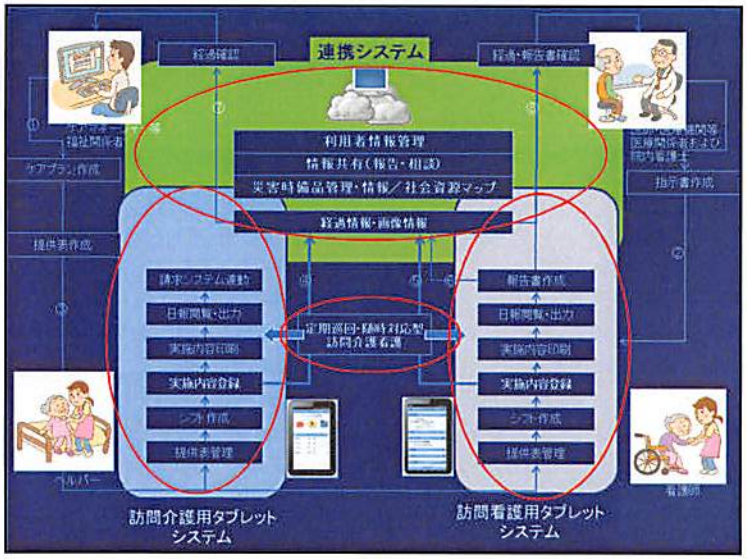
具体的な取り組み2

2、在宅医療従事者の負担軽減の支援

情報共有ツールの(タブレット末端)の検討と試行。

運用：多職種間の情報共有
　　災害時危機管理
　　その他

*先行で訪問介護と訪問看護で実施



タブレット端末

具体的な取り組み3

3、効率的な医療提供のための他職種連携

・市内全域を対象とした他職種連携を進展させるためのセミナーの開催（対象は関係福祉・医療機関）

1回目

テーマ「在宅医療連携拠点事業について」

参加者57名

2回目

テーマ「在宅で暮らすということ」

参加者55名

上記2回のセミナーの結果、医療と介護の連携により、療養が必要になっても自宅で暮らし続ける事が可能となっていく事を理解いただいた。

具体的な取り組み4

4、在宅医療に関する地域住民への普及啓発
説明会の開催(計4回実施)

医療側・・・「病院死から在宅死」
介護側・・・「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」
参加者数　1回目・・40名　　2回目・・43名
　　3回目・・45名　　4回目・・50名
在宅も施設や病院と同じように介護と看護が必要時夜間も訪問して、医師も病室へ回診をすると同じように自宅の部屋へ往診をすることで住み慣れた自宅などで療養生活が継続でき、また看取ることもできる。(定額制の介護・看護で在宅生活を可能)

具体的な取り組み5

5、在宅医療に従事する人材育成
・定期的な検討委員会時において連携を図ると共に学習の場や人材育成の場にも活用

・平成24年10月都道府県リーダー研修に参加
　新潟県:3月16日　地域リーダー研修を実施。

・2月　他職種研修会への参加(地域包括・地区ケアマネ協議会)

具体的な取り組み6

6、災害時における対応
- 災害に備えた備品の購入
  （衛星電話・発電機・アシスト付き自転車・蘇生用品など）
- 平常時の連携マップの作成と災害時マップの作成
- 支援資源の把握の一元化（ITの活用）
- 災害セミナーの開催予定(3月)

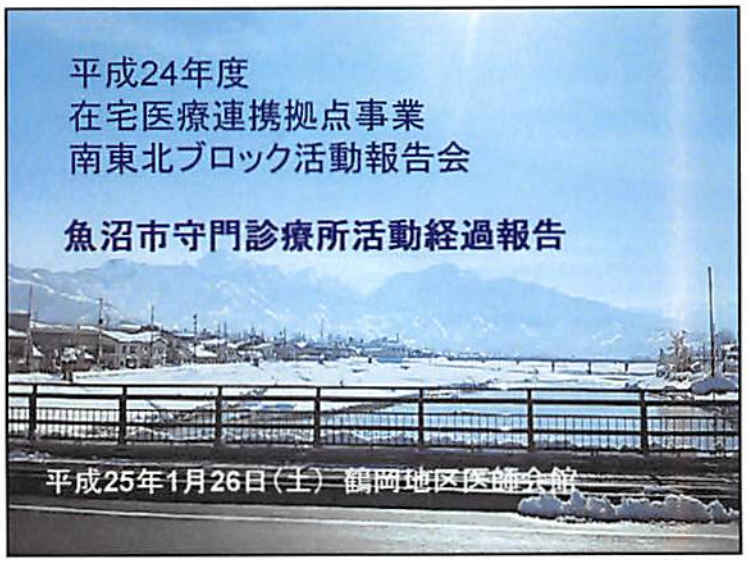
まとめ

当事業所対象エリアには、既に小規模多機能型事業や定時巡回・随時対応型訪問介護のようなフルタイムの「在宅生活」を支える「地域包括ケア」が提供されている。
ここに、「在宅医療」との連携を強化することで地域で安心して療養を受け、そこでの生活を継続した中で亡くなって行くことも可能になる。
又、災害においても在宅医療を必要とする人が安心して在宅生活が送れるよう、震災経験を活かし災害時の連絡拠点として情報収集をはじめ医療関連用品などの備品の整備や他職種連携の支援体制を構築する。

結 論

連携には、メンバーの意識共有と利用できる各種サービスの双方が原点にあり、これを効果的、効率的に動かすために連携が不可欠。そしてこのためのツールが必用であった。今後この医療と介護の連携、つまり「こうすると住み慣れた地域や在宅等で最期まで生活を送ることができる」と言う**仕組み**を、**マニュアル**にまとめ、**他の地域においても活用**できるものにする。

＊在宅生活の基盤を支える住宅とケアのシステム
＊在宅医療を支える医師間や訪問看護との連携
＊連携の為の情報共有とそのツールの活用
＊地域住民や関係機関へのセミナー等での在宅医療の普及



H16年11月1日　6町村が合併
総面積　946.93km²　東西37km/南北52km
周囲を山に囲まれた盆地
総面積の約8割は森林
可住地面積　15.5%
特別豪雪地域
点在した集落
みなし過疎地域(合併後)

(平成24年12月1日現在)
人口　40,342人
世帯数　13,619世帯
(平成22年国勢調査)
高齢化率　29.7%

魚沼市の将来の人口推計

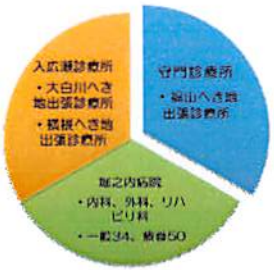
魚沼市統計データより※平成17年国勢調査を元に、平成20年12月に推計 国立社会保障・人口問題研究所推計

魚沼市の医療福祉資源の位置

病院・診療所(歯科含む)・薬局

介護事業所

魚沼市立守門診療所



守門健康センター	守門診療所
	保健センター
	高齢者生活支援ハウス
	魚沼社協訪問介護事業所守門支所
	守門デイサービスセンター
	守門居宅介護支援事業所（在介）

■平成7年（1995年）　守門健康センター内開設
■診療科：内科
■在宅療養支援診療所
■受付時間：月～金　午前8:30～11:30
（午後は訪問診療のため休診）
■休診日：土・日・祝祭日・12月29日～1月3日

タスク1
多職種連携の課題に対する解決策の抽出

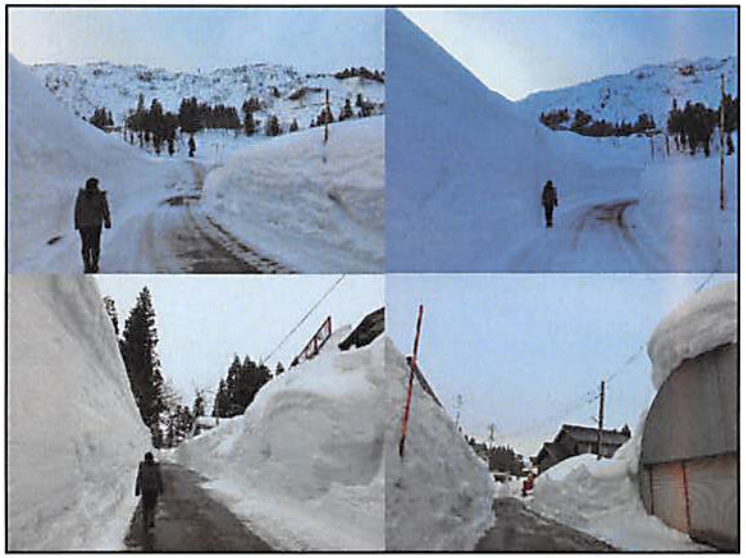
- 8/9（木）在宅医療連携拠点事業事業説明会（57名）
- 研修会の開催（包括支援センターと合同開催）
  - 9/20（木）　訪問・通所・短期区分合同研修会（152名）
    講演「在宅医療に必要な緩和ケアの基礎知識を学ぶ」
  - 9/28（金）医療・介護連携研修会（101名）
    講演「『いのちの最期を生きる』～多職種協働による看取り」
    研修会「終末期ケアにおける連携の実際」実践報告
- 11/14（水）管理者会議（23名）
  - 事業の経過報告・今後の取り組みについて

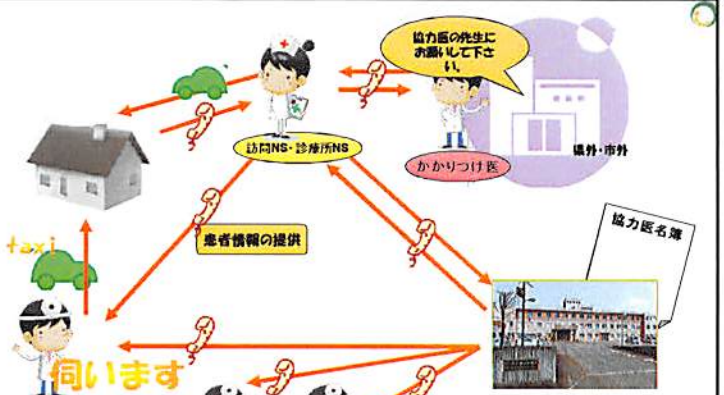
タスク1
多職種連携の課題に対する解決策の抽出

- 12/25（火）多職種合同学習会（91名）
  テーマ　「口から食べられなくなった時～本人・家族の思いと暮らしを支える地域」
  ミニレクチャー　「AHNの基本的知識を知る」
  講演　「家族による代理意思決定　その心理プロセス」
  テーブル・フロアディスカッション　「本人、家族の思いにどう寄り添えるか　医療、介護の立場から」
- 1/30（水）多職種合同課題検討会（44名見込み）
- 2/2（土）小千谷市魚沼市医師会研修会後援（84名見込み）
  講演「法医学から見た人間の一生と寿命」
  医療・保健・福祉関係者、行政のほか、警察・消防の参加

タスク2
在宅医療従事者の負担軽減の支援

- 在宅看取り支援体制の構築
  - 在宅看取支援制度構築会議の開催（8/6,9/26）
  - 関係事業所ヒアリング（10/26）
  - 地元医師会への説明
  - 少ない医療資源（医師・訪問看護師）
  - 医療・福祉資源の偏在
  - 点在した集落
  - 冬期の道路状況の悪化
- 情報共有ツールの開発に向けた取り組み
  - 平常時の看取り支援での情報共有化
  - 災害時の患者情報や道路情報等の情報共有化





タスク3
効率的な医療提供のための多職種連携

- 地域包括支援センターとの連携
  - 地域ケア会議研修会開催協力、参加
  - 区分ケア会議参加
  - 研修会2回実施
- 活動地域資源情報の把握、整理
  - 市内事業所訪問・ヒアリング　35か所
  - 資源マップの作成
  - 市内医療機関へのアンケート依頼（予定）

タスク4　地域住民への普及啓発

- 10/11（木）　地域住民向け一般公開講座（280名）
  - ATBH　VI　サテライトシンポジウム　in　魚沼
  - 一般公開講座の開催
- 3月18日（月）　住民向けフォーラム（地域医療魚沼学校との共催）
  - 講演「平穏死という選択」　　講師　石飛幸三先生
- 住民が学ぶプログラム（住民の医療資源化事業）
  - ナイトスクール（車座講座）
  - オープンスクール（健康講座）
  - クラスインスクール（学校講座）
  - オープンホスピタル（病院講座）

タスク5　在宅医療に従事する人材育成

◆在宅医療・包括ケアに関する教育・研修
- 地域内IPE講座（RIPE講座）の開催
- 8/4（土）地域医療研修フォーラムの参加
- 10/11（木）ATBHサテライトシンポジウムin魚沼（国際学術集会）の開催　91名

◆都道府県リーダー・地域リーダーの育成
- 10/13,14（土・日）都道府県リーダー研修
- 3/16（土）地域リーダー研修

地域内IPE講座（RIPE講座）の開催

Regional Interprofessional Education
地域内専門職間教育

IPEを地域内で実践するための地域医療魚沼学校の取り組み
（Interprofessional Education　専門職間連携教育）

IPW（Interprofessional Work）
専門職間連携実践

共通言語を増やす
言葉の垣根を越える
共通言語を増やす
- 多職種が使う言葉の理解を深めるための相互講師制の授業
- 互いの言葉を学ぶ

13回/延620人

楽語い講座

講師・・・訪問看護師・医師・保健師・管理栄養士・病院看護師・社協・特養・包括・薬剤師・消防・行政など

想いを重ねる
村意識を越えた想い
発想の垣根を越える
- あるテーマをより深く学ぶためのゼミナール型の少人数集中講義

6回/延217人

楽想講座

テーマ
- 終末期の暮らしについて
- 地域包括ケア

協働作業を増やす
専門を越えた協働作業
仕事の垣根を越える
- 相互理解促進のための相互業務体験プログラム。
- 医療職と福祉職の相互乗り入れ研修

2回/延2人

楽門講座

CMが病院NST回診に参加
病棟看護師がCMと在宅現場を訪問

Coffeebreak & Poster Session

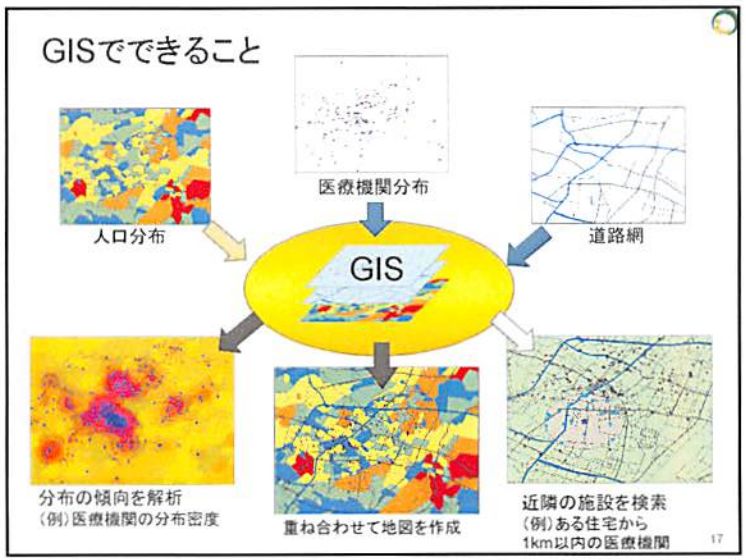
イギリスからのゲストスピーカーから講演　Short speech & Table discussion

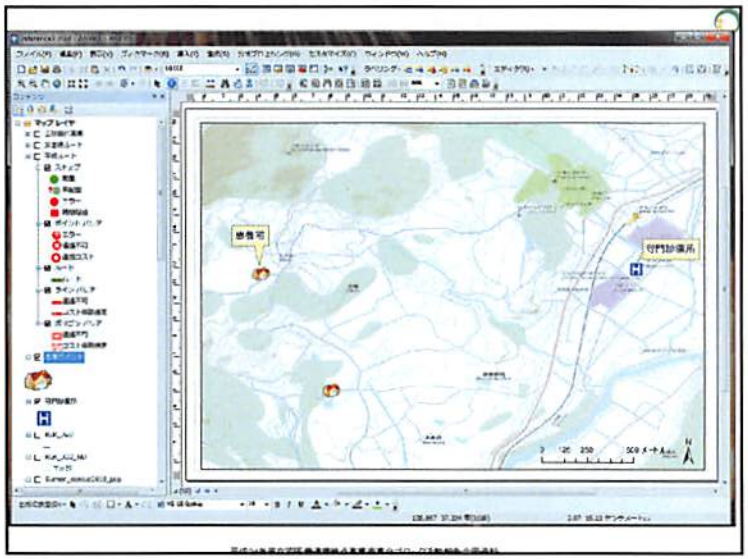
& **懇親会**

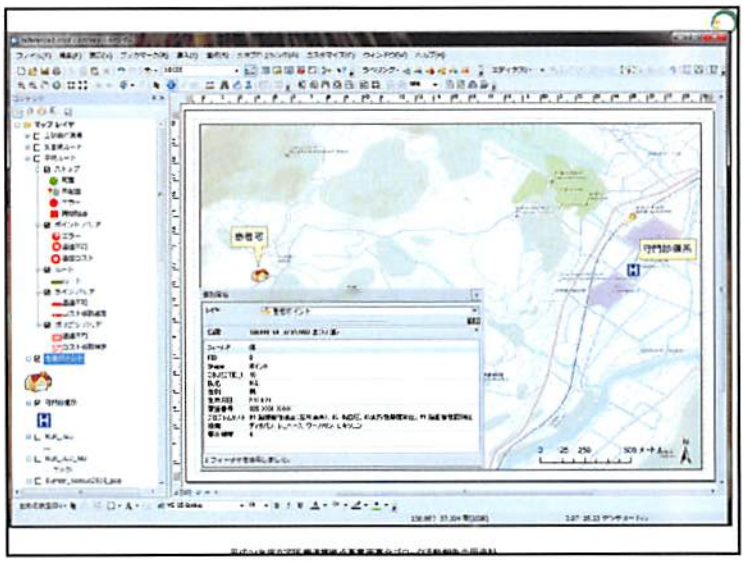
タスク6　災害時の在宅医療の対策

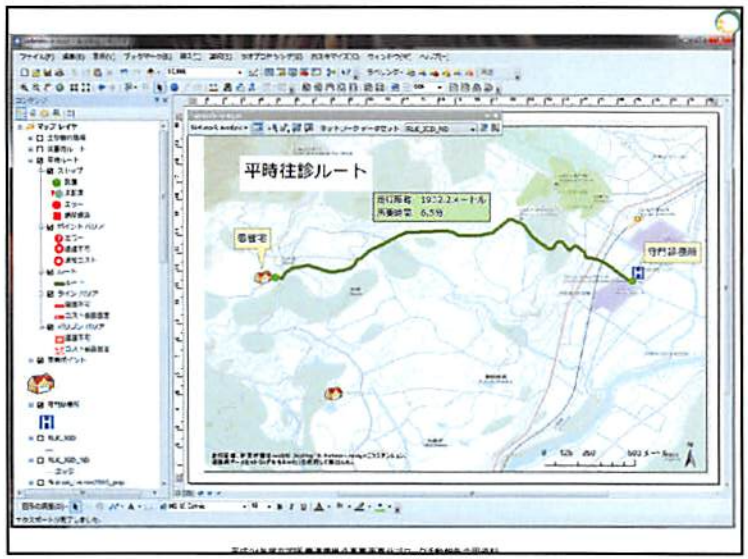
◆GIS(地理情報システム)を用いた要支援者情報システムの構築
- 新潟大学大学院との共同開発
- 平常時の看取り支援での情報共有化
- 災害時の患者情報や道路情報等の情報共有化
- 地域課題の分析

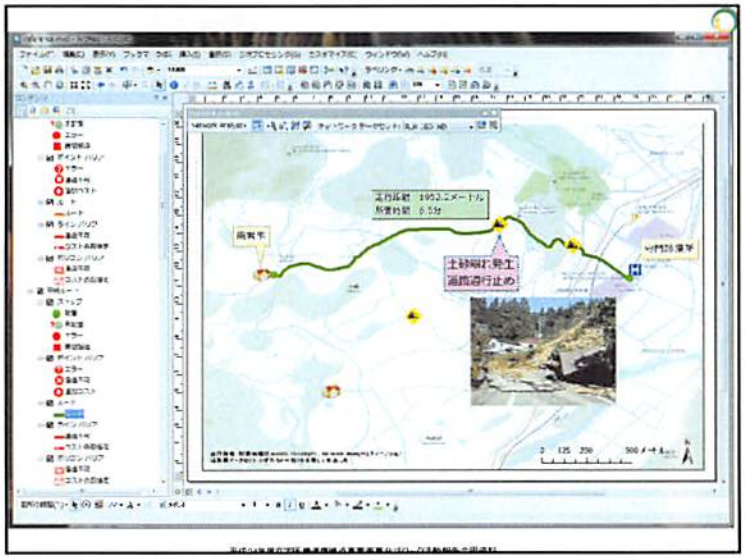
◆防災マニュアルの作成
- 作成中

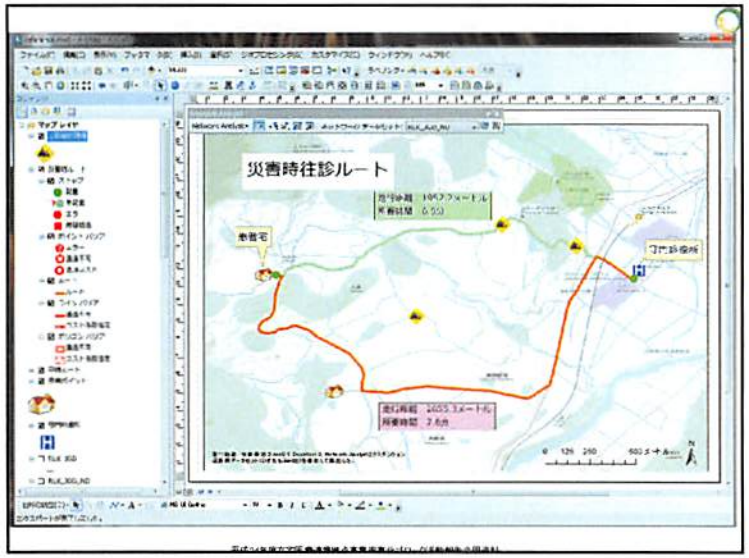

GISでできること
医療機関分布
人口分布
道路網
GIS
分布の傾向を解析
(例)医療機関の分布密度
重ね合わせて地図を作成
近隣の施設を検索
(例)ある住宅から
1km以内の医療機関
17






平時往診ルート





その他の活動（主なもの）

- 8/22(水)国立長寿医療センター　来院
- 8/28（火）県担当者　来庁
- 10/14（土）こぶし園　2012在宅医療連携拠点事業講演会　実践報告講師
- 11/2（金）日本医科大学医療管理学教室来庁
- 11/9（金）H24年度新潟県公立病院事務長研修会実践報告講師
- 第32回医療情報学連合大会（第13回日本医療情報学会学術大会）参加

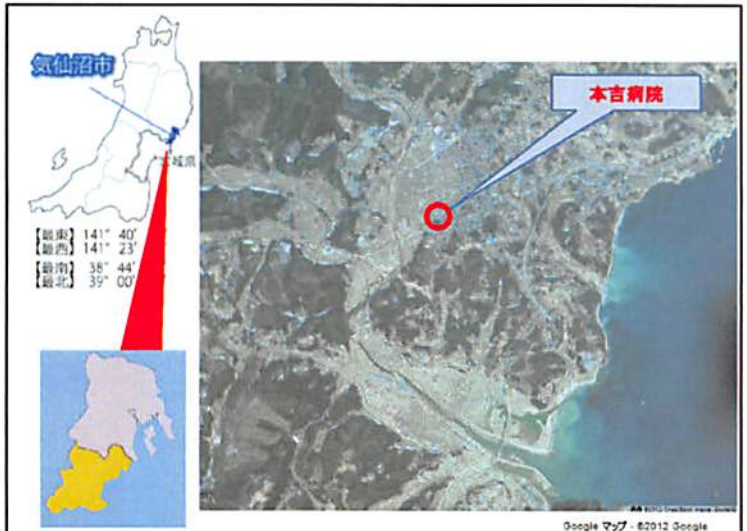
その他の活動

- 魚沼地域医療連携実務者ネットワーク参加
- 日本医療社会福祉協会「在宅医療連携拠点事業に関する研修」参加
- 1/26（土）在宅医療連携拠点事業南東北ブロック活動発表会への参加
- 2/15-17（金-日）長崎あじさいネットワーク視察（新潟大学と合同）
- アンケートの実施（看護大と共同）

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1			協力機関打合せ		ATSHサテライト開催					
2			ナイトスクール			日本国際大学国際学部学術講演会			地元国際会議発表会	
3				事業説明会（2）	新潟大学 法学部講 高専講演					
4			地域国際フォーラム準備	事業説明会（3）	ATSHサテライトスタップ打合せ（打合せ）		オープンスクール 国際会議発表打合せ（国際会議発表）			
5		協力機関打合せ		事業説明会（4）	ATSHサテライトスタップ打合せ（会場）		事業1年総括高専打ち合わせ 高専、研究			
6	高専講演		地元国際会長打合せ（発表説明） 第1回海外実習説明 参加者会議	事業説明会（1） 高専講演 協力機関打合せ	ATSH中間報	地元国際会長打合せ オープンスクール	事業1年中間報告（1月会議説明） 学習会打合せ（1月会議説明）			
7	協力機関打合せ		新潟大学説明（新潟共有システム打ち合わせ） 専門会議作業実習説明		ATSHサテライト・説明	高専、研究	高専見学・ホーム参観説明			
8			長岡高専説明（国際会）		ATSHサテライト・説明	オープンスクール 長岡説明打合せ				
9		協力機関打合せ	長岡高専会議説明会		オープンスクール	新潟県国際交流協会参加者会議説明会 国際会議打合せ		新潟国際システム学 Phase国際説明会（新潟大会用）		
10		ナイトスクール		事業説明会（2）	ATSHサテライト参加者 オープンスクール 高専、研究		学習会打合せ（第3回大会用）			
11		高専、研究		事業説明会（4 高専説明会 国際会議センター説明（ATSHサテライト打合せ）	ATSHサテライト説明		事業1年総括説明（年末会議説明）			
12	協力機関打合せ			第3回新潟大学説明（ATSHサテライト打合せ） 高専、研究			新潟国際システム打合せ（第4回用） 高専説明			
13	高専、研究	オープンスクール		新潟大学・第3回説明会説明（ATSHサテライト打合せ）	新潟県説明リーダー説明	第3回地域高専国際会議打合せ		日本国際社会福祉大学（大阪国際会議参加者高専、研究 各参加者説明）	高専、研究	
14				事業説明会（4 こども国際説明 サテライト打合せ（高専・研究機関・文化機関）	新潟県説明リーダー説明 こども国際交流説明 参観	管理者会議高専国際	学習会打合せ（年末）			
15			協力機関打合せ			オープンスクール 第3回国際学術研究会 打合せ会 ナイトスクール		ナイトスクール	事業報告会説明 長岡説明（新潟大学会用）	
16								高専、研究	長岡説明（新潟大学会用）	地域リーダー説明

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
17							学習会打合せ（2回）	長岡会議説明会打合せ（長岡高専会議説明）	長岡説明（新潟大学会用）	
18				事業説明会（3 協力機関参加打合せ）			長岡会議打合せ			地域国際会議予定 地域国際会議 高専、研究 ポスターフォーラム開催
19		打合せ会		事業説明会（3） 地元説明会議	人工知能学会説明・説明・人文ロード 地区説明説明	学習会打合せ（11月説明説明）	アンケート打ち合わせ（参観・大会ロード） 高専・研究	説明大会用		
20				オープンスクール 北ロケア会議会説明説明会		協力機関打合せ会	学習会打合せ（第2回説明・参加） 参加者打ち合わせ		長岡国際センターアンケート調査	
21			事業説明会（1）	協力機関打合せ会		地域ケア会議作業予定 説明会参加 長岡会議説明 高専・研究		協力機関打合せ会		
22			長岡国際センター見学 北陸ケア会議打合			長岡地域国際高等学校打合せ				
23			事業説明会（2）					地域ケア推進説明（地域国際説明）		
24			事業説明会（2） 地元説明会打合せ		高専・研究	長岡地域国際高等学校 参加者ネットワーク参加		北ロケア会議参加		
25	協力機関打合せ	高専・研究 協力機関打合せ	ナイトスクール				長岡国際会議学習会開催			
26	オープンスクール オープンスクール			高専・研究 学習会打ち合わせ（第2回説明） 長岡・学習会議説明会打合せ（北陸・ケア会議参加） 学習会参加者会議	学習会参加者 ナイトスクール	学習会打合せ（11月説明 長岡地域国際大会ワークショップ）	長岡会議説明会打合せ（学習、長岡） ナイトスクール	地域国際会議説明 学習会参加		
27	高専・研究		事業説明会（2）			学習会打合せ（12月説明）		長岡国際会議説明会 スタッフ打合せ	高専・研究	
28	協力機関打合せ		高専見学会 事業説明会（2） ナイトスクール	地域国際ケア会議・長岡・学習会議説明会参加	事業説明会会長打合せ・長岡会・長岡学習会説明説明会参加	地元国際会説明会打合せ（長岡会・参加者） 参加者	学習会打合せ（地元国際会議）			
29							学習大会用			
30			協力機関打合せ会	第3回国際アンケート調査	協力機関打合せ会				長岡国際会議説明会 説明 高専・研究	
31					2013打合せ（学内会議説明） 学習説明					

気仙沼市立本吉病院の取り組み



震災直後と現在

病院正面玄関

病院駐車場

本吉地区の状況

- 震災前
  - 平成23年に気仙沼市と合併。人口11，000人、高齢化率30%
  - 医療機関は当病院のみ（常勤医師2名、病床数38床）
  - 消化器内科の外来と入院医療を中心に活動
  - 訪問診療はほとんど実施なし
  - 他の専門科の医療が必要なときは、車で30分以上かけて、気仙沼市街地等遠方の医療機関受診が必要
- 震災後
  - 震災で公共交通機関が寸断
  - 11，000人のうち1，300人が仮設住宅で生活
  - 当院の機材のほとんどが被災、入院機能消失
  - 震災後2名の常勤医師の退職。一時病院の存続危機

被災地に共通する医療の課題

- まだ復興は進んでいない
- 圧倒的な医療・保健・福祉スタッフの不足
- 人材不足にもかかわらず、専門分化したままの医療提供体制（患者が必要に応じ複数の医療機関を受診する）
- 精神的な問題を抱える住民の増加に伴う医療需要の増大
- 生活環境の変化に伴う疾病の変化への対応

被災地で求められる医療

- ワンストップで多くの疾患に対応できる医療
- 生活環境に即した、慢性期疾患の適切な管理
- 精神的ストレスと身体疾患を同時にみる医療
- 地元の資源を最大限に活かす医療
- 今後長期にわたり衰退しない医療

本吉病院の取り組み１

提供側が規定する医療から、受け手が求める医療への変革

1. 地域で起こる全ての医療問題の窓口になる
2. 需要に対応するために、病院単独の活動から地域の総合力を活かす活動へ

本吉病院の取り組み２

入院医療から在宅医療へ

1. 震災後全国からの支援によって、本吉地区に在宅医療が導入された
2. 入院機能が消失したため、高齢者を地域でみていくために在宅医療を実践する必要が生じた
3. 健康問題に関しては医療機関にお任せの風土がある地域で、在宅医療を通じて、自分たちの生き方を自分たちで考えるきっかけをつくる

本吉病院の取り組み３

次世代の医療を担う人材の育成（医療の継続を活動の柱の一つにする）

1. 学生、研修医の受け入れ
   平成24年度　医学生　18名
   初期臨床研修医　11名
   後期研修医　5名
2. 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門プログラム申請

当事業での活動１

- 地域多職種連携活動（毎週水曜日夕方実施）
  - ケアマネージャー等介護スタッフとの症例検討
  - 訪問歯科との症例検討
  - 調剤薬局との情報共有と在宅患者訪問薬剤管理指導導入に向けた検討会（訪問はH24.9月から開始）
  - 医療・介護勉強会
- 在宅医療先進地域への研修
  - 訪問看護師研修　2名×3日　12月実施済
  - 本吉病院スタッフ研修　10名×3日　2～3月実施予定
  - 本吉地区介護・保健スタッフ研修　25名×2日　2～3月実施予定

当事業の活動２

- 在宅医療先進地域からのテレビ会議システムを活用した遠隔講演
  - シリーズ5回予定　現在まで2回実施
- 在宅医療を広げるためのシンポジウム
  - 第1回目　1月26日
  - 第2回目　3月24日
- iPadを活用して、在宅介護・医療の情報共有
  - 2月に試験運用開始予定

本吉地区の多職種連携、在宅医療の現状

- 歯科医師、薬剤師、介護施設・保健スタッフとの顔の見える関係が構築でした
- 多職種間で速やかな情報交換が可能となり、各専門分野のスタッフが機能分担しながら在宅に関われるようになった
- 地域住民の在宅医療への理解が進み、ターミナルケアを含めて、在宅医療導入件数が増加した

平成23年10月の在宅医療開始時点から1年経過時点の状況

訪問患者数　64名

看取り件数　27件（本吉地区の在宅看取り率約25%）

今後の課題

- 訪問医療・看護のスキルアップ
- 病院スタッフの確保によるサービスの安定供給
- 気仙沼市全域での多職種連携・在宅医療の充実

Memo

Memo